

The 34th Annual
Meeting of Japan Society of
Personality Psychology

日本パーソナリティ
心理学会
第34回大会 プログラム

2025-10-4,5

in 信州大学 松本キャンパス





大会プログラム 目次

大会準備委員長挨拶	2
大会日程	3
会場へのアクセス	4
会場図	8
大会参加者へのご案内	10
発表者へのご案内	13
優秀大会発表賞に関する案内	14
2025 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2025)	15
2025 年度ミドルサイコロジストプログラム (MPP2025)	17
国際招待講演	18
大会準備委員会企画特別講演・シンポジウム	19
経常的研究交流委員会企画シンポジウム	26
自主シンポジウム	28
ポスター発表 (優秀大会発表賞候補者)	34
ポスター発表	35



大会準備委員長挨拶

このたび、日本パーソナリティ心理学会第34回大会を信州大学松本キャンパスにて開催する運びとなりました。大会は、2025年10月4日（土）・5日（日）の2日間にわたり開催されます。

今回の大会では、「学都（がくと）で心と知識を拓く」をテーマに掲げ、研究交流を通じて知識を深めるとともに、日頃の研究や業務による疲れを癒す機会を提供したいと考えております。

松本は、北アルプスを望む雄大な自然と、歴史情緒あふれる街並みが調和する“学都”として知られています。国宝・松本城をはじめ、近代と伝統が融合する松本市美術館、風情ある中町通りや縄手通りなど、文化と芸術が息づく多彩な見どころも豊富です。秋の訪れを感じるこの季節には、澄んだ空気と爽やかな風が旅の気分を一層盛り上げてくれることでしょう。

また、松本には、歴史ある浅間温泉や美ヶ原温泉といった名湯が点在しており、学会での交流や研究の合間に、ゆったりと心身を休めていただけます。さらに、地元食材を活かした郷土料理も豊富で、香り高い信州そばなど、松本ならではの味覚を存分にお楽しみいただければ幸いです。こうした豊かな自然・文化・食が揃う松本の地で、リフレッシュしながら実りある研究交流の機会を共有できればと願っております。

本大会では、ポスター発表、自主シンポジウム、特別講演、招待講演、シンポジウムなど、多彩な企画を用意して皆様をお迎えいたします。会員の皆様におかれましては、ご多忙の折とは存じますが、日本パーソナリティ心理学会第34回大会に是非ご参加いただき、活発な研究交流の場としてご活用いただくとともに、松本が誇る自然と文化に触れるひとときをお楽しみいただければ幸いです。

大会準備委員一同、皆様と松本の地でお会いできることを心より楽しみにしております。

2025年3月吉日
日本パーソナリティ心理学会第34回大会準備委員会
委員長 佐藤 広英
事務局長 三和 秀平



大会日程

大会1日目（10月4日（土））

10月4日（土）	人文ホール （1F）	202演習室・204演習室 （2F）	第1講義室 （2F）	第4講義室 （3F）	第2講義室 （2F）	206演習室 （2F）	205演習室 （2F）
9:00	受付 クローク 9:00～18:30						
9:30							
10:00							
10:30		ポスター発表① 10:00～12:00	自主シンポジウム④ 大村政男の地域性（県 民性）研究のまとめ 10:00～12:00	国際招待講演 Putting Regional Personality on the Map 10:00～11:30			
11:00							
11:30							
12:00							
12:30		ポスター発表② 12:30～14:30 ★優秀大会発表 候補者発表	展示・ 書籍販売 9:00～ 18:00	シンポジウム① パーソナリティ症 における記憶の歪み 12:20～14:20	休憩室 9:00～ 18:00	ファミリ ースペ ース	理事会 12:10～13:10
13:00							
13:30							
14:00							
14:30							
15:00		ポスター発表③ 14:50～16:50	自主シンポジウム② 心理的状況研究の 最前線（4） 14:40～16:40	特別講演 ダンゴムシのころと 行動抑制ネットワーク理論 14:30～16:00			
15:30							
16:00							
16:30							
17:00							
17:30				総会 17:00～18:00			
18:00							
18:30							

※18:30～ 懇親会 会場：肉ビストロmatsumotoMt.BARU

大会2日目（10月5日（日））

10月5日（日）	人文ホール （1F）	202演習室・204演習室 （2F）	第1講義室 （2F）	第4講義室 （3F）	第2講義室 （2F）	206演習室 （2F）	205演習室 （2F）
9:00	受付 クローク 9:00～16:00						
9:30							
10:00		ポスター発表④ 9:30～11:30	シンポジウム② 仮想空間と パーソナリティ 9:30～11:30	シンポジウム③ 信州における 岳間のススメ 9:30～11:30			
10:30							
11:00							
11:30							
12:00							
12:30		ポスター発表⑤ 12:00～14:00	展示・ 書籍販売 9:00～ 16:00		休憩室 9:00～ 16:00	ファミリ ースペ ース	ミドルサイコロジスト プログラム（MPP） 11:45～12:45
13:00							
13:30							
14:00			自主シンポジウム③ サブカルチャー心理学 への道 13:00～15:00	経常的研究交流委員会 企画シンポジウム 人が他人を助けるとき 13:00～15:00			
14:30							
15:00							
15:30							
16:00							



会場へのアクセス

1. 学会大会・総会会場へのアクセス

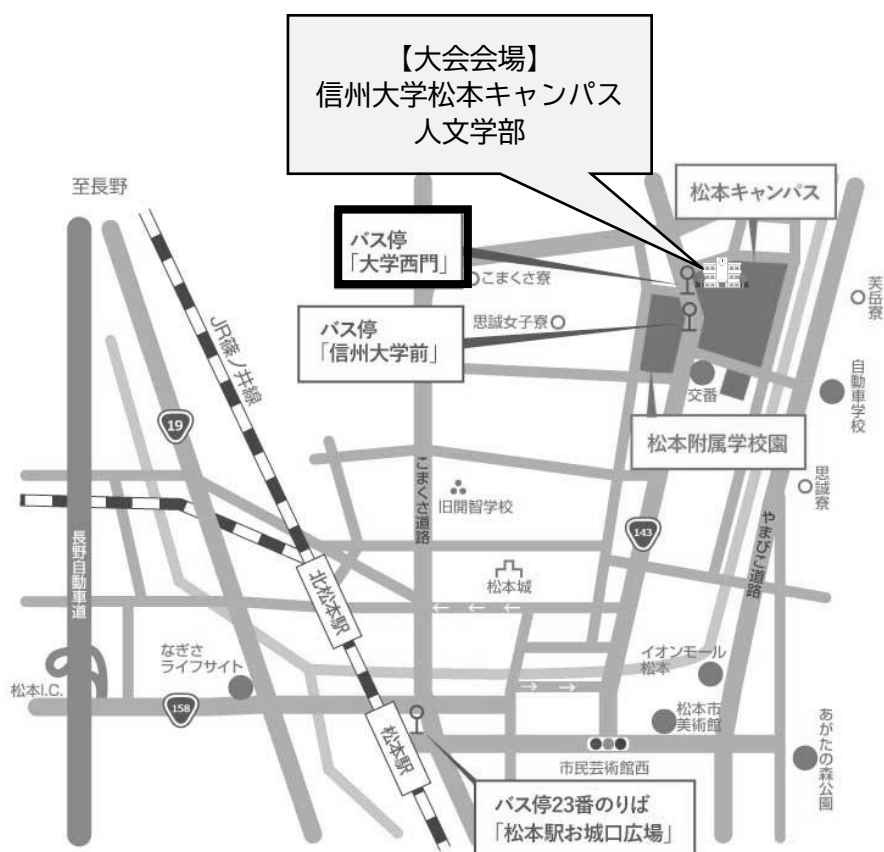
【信州大学松本キャンパス人文学部】

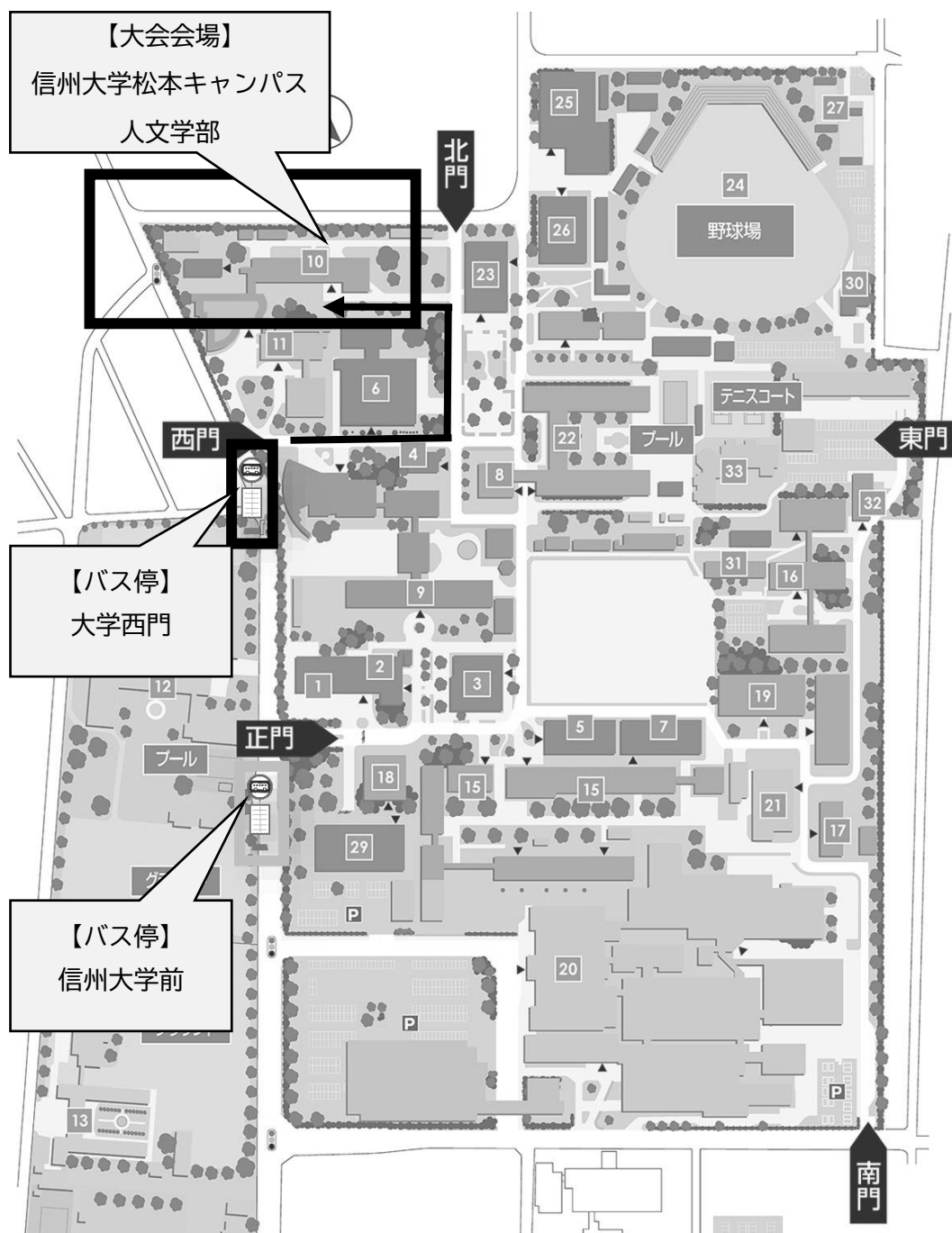
- JR 松本駅お城口（東口）23 番のりばから「信大横田循環線」または「浅間線」（アルピコバス）に乗車し約 15 分、バス停「大学西門」で下車します。人文学部までは徒歩 5 分程度です。
 - * バス停は「信州大学前」よりも、「大学西門」の方が会場へのアクセスは便利です。
- JR 松本駅から徒歩 45 分程度

* 公共交通機関をご利用してお越しください。

* 松本駅周辺は道が混み合います。お越しの際は時間にご注意ください。

* 信州大学は複数キャンパスがあります。松本キャンパスになりますのでお間違えのないようにご確認ください。





バスの時間はこちらからご確認ください。

<https://www.alpico.co.jp/traffic/local/search/result/1599/>



2. 懇親会会場へのアクセス

肉ビストロ matsumoto Mt. BARU

(〒390-0811 長野県松本市中央1丁目19-15)

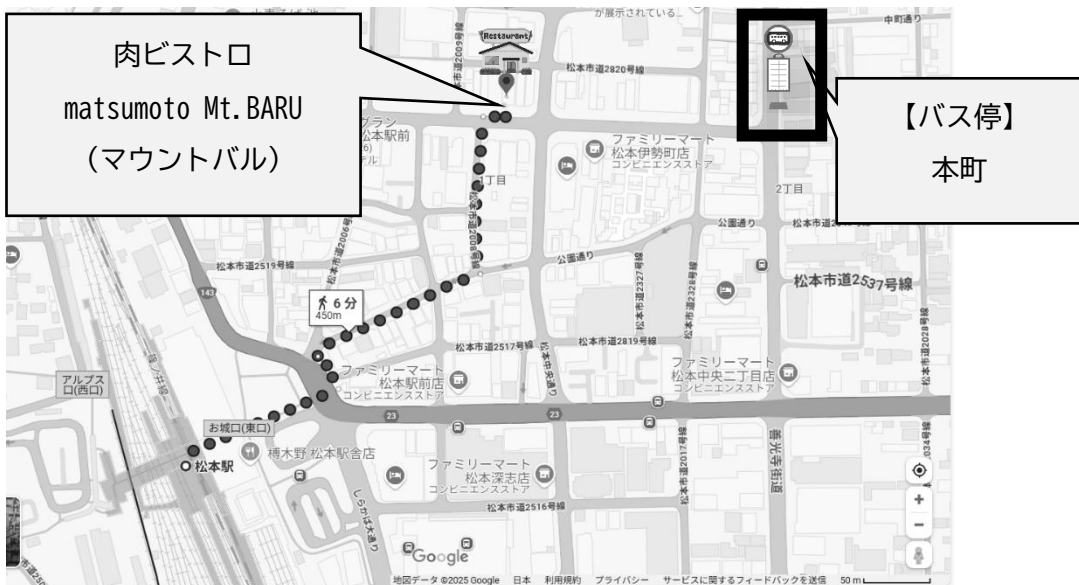
<https://www.web-komachi.com/?p=138086>



* 総会後にバスで送迎があります。

- ・ 【信州大学前】または【大学西門】から「信大横田循環線」または「浅間線」（アルピコバス）に乗車し約15分、バス停「本町」で下車して徒歩3分
- ・ JR松本駅から徒歩6分

懇親会会場へ直接行く方はこちらをご参照ください。



バスの時間はこちらからご確認ください。

<https://www.alpico.co.jp/traffic/local/search/result/1599/>



3. アクセス

【主要ターミナルからのアクセス】

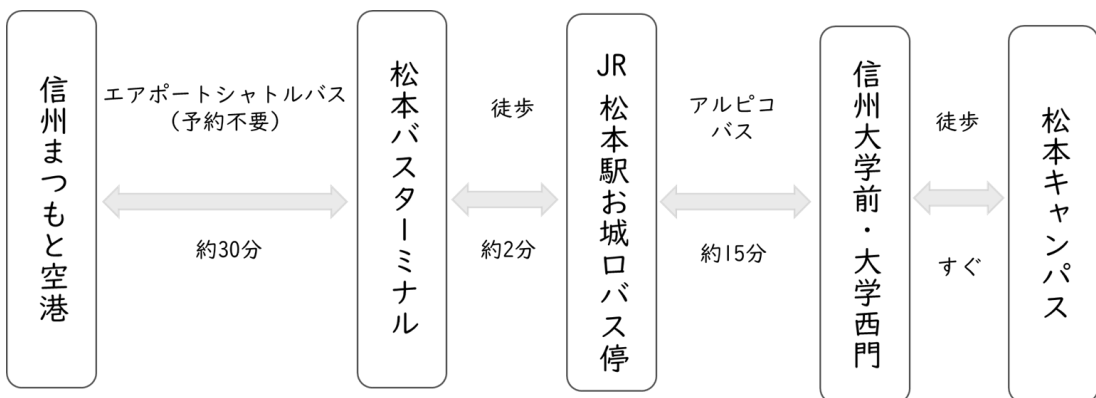


詳しくは大学 HP をご参照ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/access/matsumoto/>



【空港からのアクセス】



松本空港へは札幌，福岡，神戸へ直航便が就航しています。

詳細は松本空港 HP をご確認ください。

<https://www.matsumoto-airport.co.jp/access/bus>



会場図

【人文学部校舎】

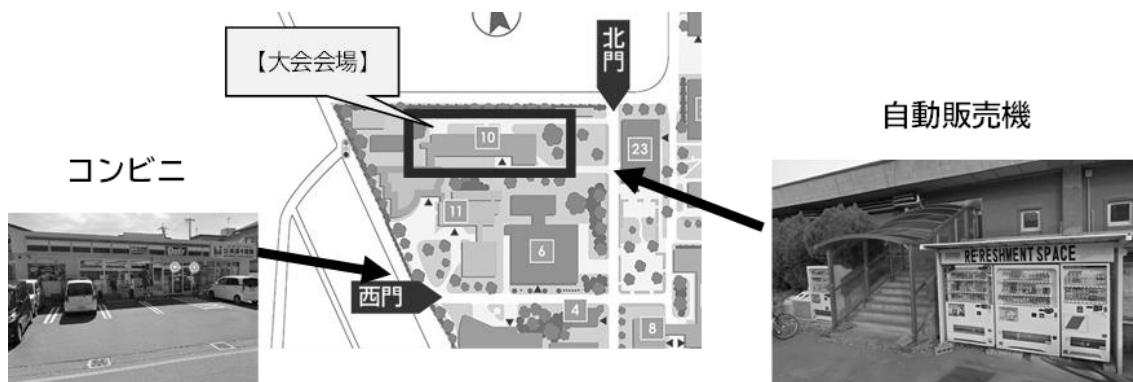


1 階	受付・クローク（人文ホール）
2 階	ポスター会場，展示・書籍販売（202 演習室・204 演習室） シンポジウム会場（第 1 講義室） 休憩室（第 2 講義室） 理事会（205 演習室） ファミリースペース（206 演習室）
3 階	シンポジウム会場・総会会場（第 4 講義室）

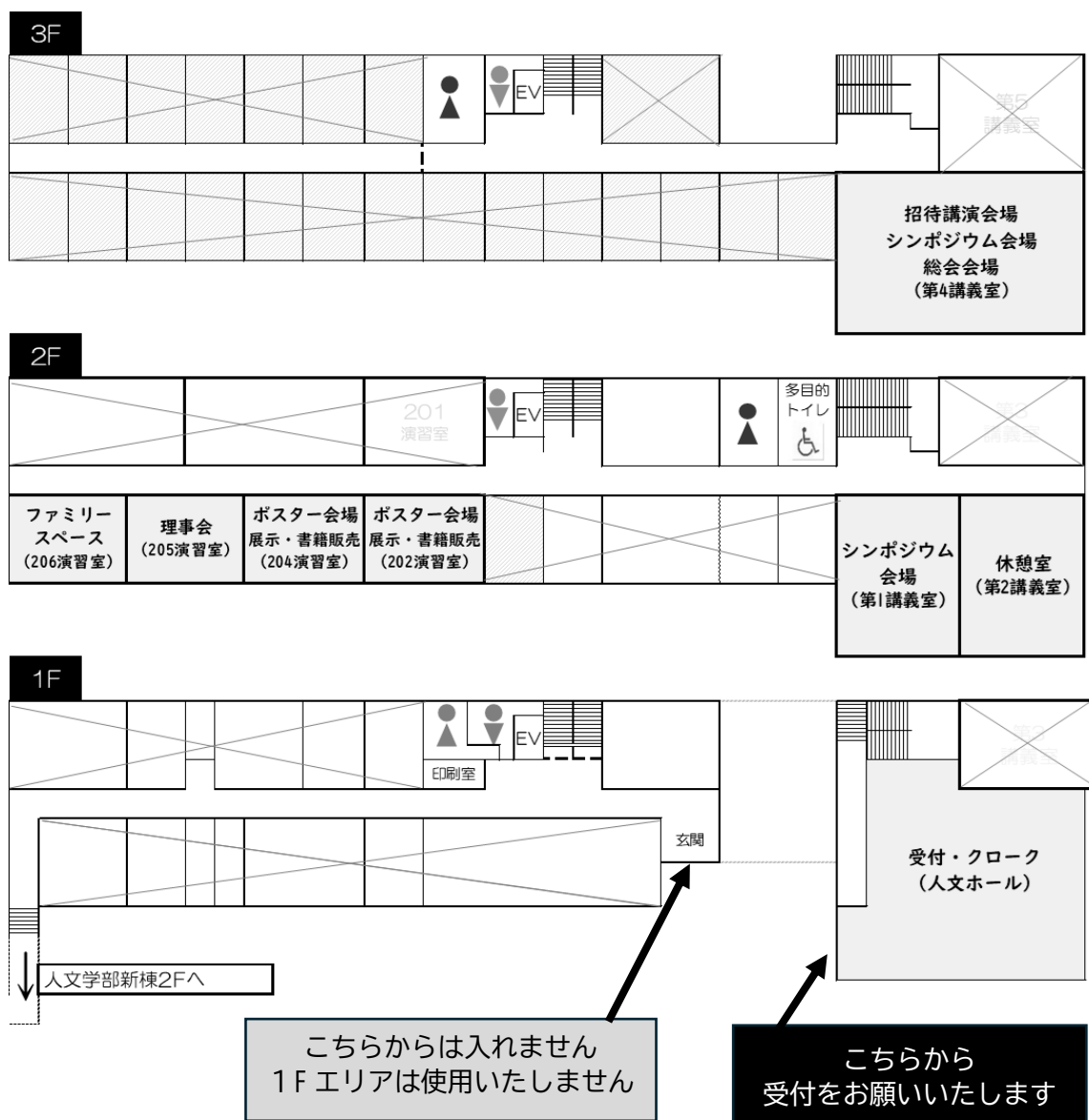
* 大会 HP にてランチマップおよび蕎麦屋マップを公開していますのでご利用ください。

* 棟内には自動販売機はありません。

大学西門付近のコンビニをご利用いただくか、別の棟の自動販売機をご利用ください。



【フロアマップ】





大会参加者へのご案内

1. 会期と会場

会期：2025 年 10 月 4 日（土）・5 日（日）

会場：信州大学松本キャンパス（〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1）

2. 大会参加に関する諸費用

費目	区分		金額（円）
大会参加費	予約 (9 月 5 日まで)	一般会員	9,000
		院生会員	6,000
		学生会員	1,000
		臨時会員（非会員）（一般）	11,000
		臨時会員（非会員）（院生）	8,000
	当日	一般会員	10,000
		院生会員	7,000
		学生会員	1,000
		臨時会員（非会員）（一般）	12,000
		臨時会員（非会員）（院生）	9,000
		臨時会員（非会員）（学生）	1,000
懇親会費	予約期間のみ (9 月 5 日まで)	一般会員	6,000
		院生・学生	3,000
		臨時会員（非会員）	6,000

※税区分について、大会参加費は不課税、懇親会費は課税対象（上記金額は税込）となります。

※研究生なども含め、学部生ないし大学院生ではない方はすべて一般としての参加になります。

※大会に参加されない非会員の連名発表者の費用は不要です。

※大会参加者のご家族等の同伴者（研究者を除く）や高校生以下のお子様は、参加費無料で入場いただけます。

※本大会では冊子形式の発表論文集は販売しません。9 月中旬に大会ウェブサイトよりダウンロードが可能となりますので、そちらを参照してください。

3. 会場設備

【受付・クローク】

受付とクロークは、大会会場入口の人文ホールに設置します。受付とクロークの利用時間は大会の 1 日目（10 月 4 日）は 9:00～18:30、2 日目（10 月 5 日）は 9:00～16:00 です。参加される皆様には、名札、プレート、大会プログラム、領収書（当日参加の方のみ）をお渡ししますので、必ず受付にお立ち寄り下さい。なお、貴重品は、各自で管理いただきますようお願いいたします。

また、補助金の交付申請を行うため、受付の際に宿泊先等を含めた参加者情報の入力をお願いしております。ご協力をお願いいたします。

【休憩室】

大会会場 2 階、第 2 講義室が休憩室としてご利用いただけます。

【ファミリースペース】

大会会場 2 階、206 演習室をファミリースペースとしてご利用いただけます。

ここでは、自習・読書・ゲームなど自由に使える机と椅子をご用意し、スタッフが 1 名常駐します。下記の注意点をよくお読みいただき、ご利用ください。

- ・乳幼児から高校生まで幅広く利用可能ですが、9 歳以下のお子さまは、保護者の同伴が常時必要です。お子さまだけのご利用は、10 歳以上とします。その際も、必ず保護者が受付を行ってください。
- ・飲食物の提供はありませんので、ご家庭でご用意ください。ご家族での昼食などにもご利用いただけます。
- ・スタッフは、入退室の管理のみ行います。ご利用中の事故およびその他のトラブルは責任を負いません。

【展示・書籍の販売】

大会会場 2 階、202 演習室、204 演習室（ポスター発表会場と同じ場所です）に展示・書籍販売スペースを設置します。出展企業は以下の通りです。

- ・福村出版株式会社
- ・株式会社ライトストーン
- ・アイブリッジ株式会社

【駐車場】

大会会場には駐車場はございません。近くの市営駐車場（松本市営美須々駐車場、4 時間ごと 200 円）がご利用いただけますが、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

4. 大会関連行事のご案内

【総会】

大会 1 日目の 10 月 4 日（土）の 17:00～18:00、懇親会の前の時間帯に、人文学部棟 3 階第 4 講義室にて Web 会議システムと対面のハイブリッドで開催いたします。

【懇親会】

大会 1 日目の 10 月 4 日（土）18:30 から、肉ビストロ matsumoto Mt.BARU にて開催いたします（総会後、大会会場からバスで送迎いたします）。懇親会へ参加できるのは、事前（早期・予約期間）に予約された方のみです。

【理事会】

大会 1 日目の 10 月 4 日（土）の 12:10～13:10 に人文学部棟 2 階 205 演習室にて対面で開催いたします。理事・監事の皆様はご参集ください。

【ヤングサイコロジストプログラム（YPP）】

大会前日（10 月 3 日（金））の 14:30 ～ 17:45 に、信州大学松本キャンパス人文・経法新棟 2 階 212 講義室で行います。詳細は本大会プログラムの 15～16 ページをご覧ください。

【ミドルサイコロジストプログラム (MPP)】

大会 2 日目の 10 月 5 日（日）の 11：45～12：45 に、人文学部棟 2 階 205 演習室で開催します。詳細は本大会プログラムの 17 ページをご覧ください。

5. その他

【資格更新ポイントについて】

本大会，および大会のプログラムは臨床心理士の資格更新ポイントの対象となっています。具体的には，「日本臨床心理士資格認定協会：臨床心理士資格更新制度」の「③本協会が認める関連学会での諸活動への参加」に該当します。

【メディアへの発信】

大会期間中，大会公式 X で大会の情報を発信しますのでご参照ください。

大会期間中に発表の録音および録画等をする場合は，発表者の許可を取るようお願いいたします。また，SNS などの公共性の高いメディアで発表内容を情報発信する場合は，発表者や他の参加者の気分を害することがないようにお願いいたします。

【ご協力のお願い】

本大会は，一般社団法人松本観光コンベンション協会および松本市の協力を得て開催します。補助金の交付申請を行うため，参加者名簿（氏名，所属先とその所在地，宿泊日数）を提出させていただきます。必要情報の記入および提出にご理解ご協力くださいますようお願いいたします。



発表者へのご案内

1. 一般研究発表（ポスター発表）

本大会のポスター発表は、5セッションです。すべて対面で行います。各セッションのスケジュールは、「大会日程」をご確認ください。

【掲示について】

- ・ ポスター会場のパネル設置面は縦 177cm、横 86cm です。パネルに収まるのであれば、ポスターのサイズは問いません。ただし、ポスターは、発表タイトル、発表者の氏名と所属、発表内容の情報を含めて作成してください。
- ・ ポスターの最上部に大きく、発表タイトル、発表者の氏名、所属を表記するようにしてください。本文はポスターから離れた位置でも見える大きさにしてください（フォントサイズの指定はありません）。
- ・ 資料等を配布する場合には、各自でご準備ください。コピー機等の用意はありません。
- ・ セッション終了時刻になったら、速やかにポスターを撤去してください。撤去されないまま放置されたポスターは大会準備委員会で処分します。

【発表成立要件】

- ・ 発表受付は不要です。ポスターを掲示し、在席責任時間中ポスターの前で発表し、質疑に応じることで正式発表として認められます。

【在席責任時間】

- ・ 在席責任時間は、奇数番号はセッション前半の 60 分、偶数番号はセッション後半の 60 分です。それぞれの在席責任時間中に、発表者の在席を確認します。なお、在席責任時間帯以外にも、できるだけ在席することが望まれます。

【その他】

- ・ 責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、連名発表者が発表を代行することができます。発表取り消しについては、事前に大会準備委員会 (jspp34.2025@gmail.com) までご連絡ください。

2. 大会準備委員会企画・各種委員会企画・自主企画

- ・ 会場に発表資料投影用の機材（プロジェクター、スクリーン）を用意します。パソコンは発表者ご自身の PC をご使用ください。映像出力には HDMI がご利用いただけます。
- ・ 自主企画シンポジウムの時間は 120 分に設定されています。参加者による質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。



優秀大会発表賞に関する案内

1. 優秀大会発表賞について

本大会では、優れたポスター発表に対して優秀大会発表賞が授与されます。抄録原稿を対象とした一次審査と、当日の発表を対象とした二次審査による総合的な審査で受賞者を決定します。今年度より、「優秀大会発表賞（一般）」と「優秀大会発表賞（大学院生）」の2部門を設けることとなりました。

2. 一次審査の結果

一次審査通過者については、本大会プログラムの34ページをご覧ください。

3. 二次審査について

二次審査は、大会参加者による投票で行います。優秀大会発表賞候補者の発表と審査は、下記の通り行います。

日時：大会1日目10月4日（土）12：30～14：30

場所：202 演習室（この部屋では、優秀大会発表賞候補者の発表と投票のみ行います）

投票基準：研究内容の質（内容の新規性、データの貴重さ、問題提起の面白さなど）、ポスターの工夫と発表の分かりやすさ、質疑応答の明確さなどを踏まえた総合評価

投票方法：当日、審査会場（202 演習室）にて投票を行います。特に優れた発表を1つにご投票ください。

※大会参加者のみなさまへお願い

優秀大会発表賞候補者の発表時間帯にご来場・ご投票いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

4. 受賞者の発表について

大会終了後にメールニュース等で行います。



2025 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2025)

研究やこれからの歩みについて、同じような立場の仲間と語り合う。ヤングサイコロジストプログラム (YPP)は、若手研究者が肩の力を抜いて交流する場所です。大学・職場・専門領域を越えて新たな仲間とつながる場として、多くの方々にご好評いただいています。

YPP2025 のテーマは

「研究ネットワークを広げようー"これまで"を深め, "これから"を創るー」

研究の実情を語り合い、関心のあるキーワードについて議論する中で、これまでの歩みを見つめ直し、これからのつながりの種を育てていく。そんな時間を、松本の地で一緒にできたら嬉しいです。ぜひお気軽にご参加ください。オンライン交流を目的とする Discord グループのみの参加・交流も大歓迎です！

1. HP

https://jspp.gr.jp/sympo/wk_r7/

2. 開催日時

日時：2025 年 10 月 3 日（金）14:30～17:45（受付：14:00～14:30）

場所：信州大学 松本キャンパス

参加費：無料

懇親会：18:30～（2 時間程度、参加費：2500 円～4000 円予定）

*途中参加・途中退出をご希望の方は事前に下記のメールアドレスまでご連絡いただけますと幸いです。

3. 開催場所

信州大学松本キャンパス 人文・経法新棟 2 階 212 講義室

4. 申込方法

下記の URL にアクセスし、応募フォームに従って申込みをお願いいたします。

応募フォーム：<https://forms.gle/nCfo7dLakDvKzgdE7>

5. 申込締め切り

2025 年 8 月 31 日（日）

6. 参加資格

学部・大学院に在籍中 or 卒業・修了/退学後 5 年以内の方

※パーソナリティ心理学会員以外の方も歓迎します。

7. 参加費

無料

8. 企画内容

YPP では、以下 2 つの企画を異なる班で 2 セット実施します。

企画 1: 若手研究者の多様な実情共有

企画 2: 関心キーワード紹介

1 回目の班は近いキャリア, 2 回目の班は異なるキャリアかつ研究領域が近い人同士で、それぞれ少人数で構成されます。

企画 1: 若手研究者の多様な実情共有

研究の進め方や、工夫、悩みなど……。研究生活における"等身大"の話を、少人数グループで自由に語り合う時間です。この企画を通して雰囲気をつんでいただくので、初対面での会話が不安な方もご安心ください。自己紹介を事前に考えておけるシートや、話題に困った際に利用できる話題カードも準備しています。

企画 2: 関心キーワード紹介

前半の実情共有で打ち解けたグループそのままに、皆さんが関心を持っているキーワード (e.g., 研究テーマや理論, 概念) について議論します(1 人 10 分程度)。前半の班では異なる領域の視点から、後半の班では同じ領域 (長めに時間を設定) の視点から、自分の関心を見つめ直す時間です。発表資料を作成するためのテンプレート (A4 一枚) も準備しています。話しやすさ・聞きやすさを大切に、対話的なスタイルを予定しています。

※何らかの理由で発表を希望されない場合は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

9. オンラインコミュニティ(Discord)について

YPP 当日の現地企画に加え、交流を目的としたオンラインコミュニティ (Discord) も運営します。現地参加が難しい方も大歓迎です。研究情報の交換や質問、学会・論文紹介など、自由にご活用ください。 ※当日の企画は対面のみ

企画: 戸田 晃大 (九州大学・企画担当代表), 久保田 晶乃 (法政大学), 有海 春輝 (京都大学), 松崎 美奈子 (早稲田大学)

主催: 日本パーソナリティ心理学会広報委員会

連絡先: jspp.wk@gmail.com



2025 年度ミドルサイコロジストプログラム (MPP2025)

MPP は、同世代の研究者と共に、中堅教員・研究者が抱えるさまざまな課題を共有し、議論を通じた交流を行う場として、2016 年度より開催されております。大学教育に携わる中堅層の先生方を念頭においた企画ではございますが、今年度は、大学での教育に興味・関心がある方なら（属性や勤務先や会員／非会員などに関わらず）どなたでもご参加いただけます。今年度は、大会 2 日目に、下記の要領で開催します

1. 開催日時

2025 年 10 月 5 日（日）11:45～12:45

2. 開催場所

信州大学松本キャンパス 人文学部棟 2 階 205 演習室

3. 参加費

無料（茶菓子などをご用意しております。）

4. 企画のテーマと内容

『工夫やコツを教えてください！—大学教員・研究者のゆとりをつくるには？—』

腰を据えて研究をしたい・・・けれども授業や研究以外の業務、そしてプライベートなことなど、キャリアを重ねるほど、研究の時間や心の余裕を持つことが難しくなるように感じます。今回の MPP 企画では、大学教員・研究者のワークライフバランスに注目し、仕事上おこる“あるある”な話題を提供しながら、忙しい中で研究などの時間のゆとりをつくるちょっとした時間管理の工夫、研究のモチベーションを保つための自分なりの秘訣などを共有することを目的とした企画を計画しています。

企画：大浦真一（東海学院大学）、阿部夏希（長野大学）、西川一二（大阪商業大学）

主催：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会



Putting Regional Personality on the Map

講演者: Friedrich M. Götz

(Department of Psychology, University of British Columbia)

司会者: 吉野 伸哉 (公益財団法人医療科学研究所)

企画者: 日本パーソナリティ心理学会第34回大会準備委員会

・經常的研究交流委員会



講演要旨

Nobody lives in a vacuum. Whoever we are and wherever we go, every second of our existence is spent in a physical and sociocultural environment that we inevitably interact with. Building on this simple fact of life, in the present talk I argue that geography is foundational to psychology and vice versa. To support this claim, I first introduce the Geographical-Psychological Interactionist Framework, a novel conceptual framework to systematise and guide research at the nexus of psychology and geography. I then present original empirical findings that combine large-scale geo-tagged personality datasets with diverse real-world behavioral outcomes and ecological indicators (e.g., housing prices, personal financial records, patent production rates) across multiple countries (e.g., India, Japan, USA) and spatial levels (e.g., states, cities). Collectively, these studies 1) demonstrate systematic regional variation in Big Five personality traits, cultural tightness, courage, and loneliness, 2) identify various ecological (e.g., mountainousness, walkability, climate), sociocultural (e.g., frontier spirit), and economic factors that may contribute to geographical psychological differences, and 3) show how regional psychological differences contribute to outcomes as diverse as suicide rates and individual spending. I conclude with personal reflections, future research directions, and a list of resources for interested researchers and practitioners.

講演者の紹介

Friedrich M. Götz 先生は、パーソナリティ心理学を専門とする研究者です。ケンブリッジ大学で博士号を取得後、現在はブリティッシュ・コロンビア大学心理学部（カナダ）の Assistant Professor を務めておられます。ビッグデータを活用して、地域差におけるパーソナリティの原因と結果を学際的に検討する研究を行っています。その成果は「Nature Human Behaviour」「American Psychologist」「Journal of Personality and Social Psychology」などの著名な学術誌に多数掲載されています。

本講演に関連する主たる研究業績

- Götz, F. M., Montello, D. R., Varnum, M. E. W., Luca, D., & Kenrick, D. T. (in press) A unified framework integrating psychology and geography. *Nature Human Behaviour*.
- Peters, H., Götz, F. M., Ebert, T., Müller, S. R., Rentfrow, P. J., Gosling, S. D., Obschonka, M., Ames, D., Potter, J., & Matz, S. C. (2023). Regional personality differences predict variation in early COVID-19 infections and mobility patterns indicative of social distancing. *Journal of Personality and Social Psychology*, 124(4), 848–872.
- Ebert, T., Götz, F. M., Mewes, L., & Rentfrow, P. J. (2023). Spatial analysis for psychologists: How to use individual-level data for research at the geographically aggregated level. *Psychological Methods*, 28, 1100–1121.
- Götz, F. M., Ebert, T., Gosling, S. D., Obschonka, M., Potter, J., & Rentfrow, P. J. (2021). Local housing market dynamics predict rapid shifts in cultural openness: A 9-year study across 199 cities. *American Psychologist*, 76(6), 947–961.
- Götz, F. M., Stieger, S., Gosling, S. D., Potter, J., & Rentfrow, P. J. (2020). Physical topography is associated with human personality. *Nature Human Behaviour*, 4(11), 1135–1144.

その他の研究業績は以下の web サイトをご覧ください。

<https://scholar.google.com/citations?user=IPknh6YAAAAJ&hl=en>



ダンゴムシのころと行動抑制ネットワーク理論

講演者：森山 徹（信州大学繊維学部）

司会者：佐藤 広英（信州大学）

企画者：日本パーソナリティ心理学会第34回大会準備委員会

講演要旨

「心」を辞書でひくと、「人間の精神作用を司る器官」とある。一方、ペットを飼う人々の多くは、彼らに心があると感じているだろう。では、人間とペットに共通の「心」とは何であろう。それは「わからなさ」であると、私は考えている。たとえば、私が図書館で本を読むとする。この時、お気に入りの音楽を思い出し踊ってしまうと、私は「わからない人」として扱われる。踊る他にも、走る、寝るなど多くの余計な行動が出現を控えている。にもかかわらず私が本を読めるのは、余計な行動の発現機構が互いに行動の出現を抑制し合っているからだと考えられる。このように、「余計な行動を抑え、わからなさを抱えておく仕組み」が、「行動抑制ネットワーク」である。このネットワークは外から見えず、その形は余計な行動の数が刻々と変わるにつれて移ろう。このように、私たちの内に潜み姿が不定な存在、それはまさしく心だろう。

行動抑制ネットワークは外から見えないのでその存在を確かめようがなさそうである。しかし、ネットワークが抑制をはずして余計な行動を解放する現象を通しその存在を垣間見ることができる。私たちはこれまでに、ダンゴムシに余計な行動の解放を促す実験を行ってきた。たとえばゴールのない無限T字迷路に投入すると、彼らは「壁登り」を解放させ迷路から抜け出した。また、背中合わせで2匹を糸でつなぐ実験では、「馬乗り」を解放させ合体移動することで終わらない綱引きから脱した。ダンゴムシは、想定外の状況に置かれると余計な行動を自ら解放させ、行動抑制ネットワークの働きを見せてくれる。翻って、ヒトに余計な行動の解放を促す想定外の状況とはどのようなものなのだろうか。それを探るには、ヒトの精神を探る専門家との深い議論が必要だろう。

講演者の略歴

神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。公立はこだて未来大学複雑系科学科助手、信州大学ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点特任助教、同繊維学部助教を経て2025年現在同准教授。専門は動物行動学、比較心理学。モノの心の研究会主宰。

著書

『ダンゴムシに心はあるのか 新しい心の科学』（PHP 研究所）

『オオグソクムシの謎』（PHP 研究所）

『オオグソクムシの本』（青土社）

『モノに心はあるのか』（新潮社）



パーソナリティ症における記憶の歪み

企画者：日本パーソナリティ心理学会第34回大会準備委員会

司会者：松本 昇（信州大学）

話題提供者：松本 昇（信州大学），田上 恭子（久留米大学），櫛引 夏歩（弘前大学）

指定討論者：林 直樹（西ヶ原病院）

1. 企画主旨

ヒトの自伝的記憶は思い出される度に再構成されるという特徴を持ち（Addis et al., 2007），ゆえに事実が歪められていくことがある。その典型例は False memory（偽りの記憶）である。実際には経験しなかったはずの被害者の記憶の回復や，目撃証言の誤りによって無実の人物が有罪判決を受ける事例は社会問題となってきた（ロフタス，2000）。

一方，近年では，記憶の歪みはヒトの適応的な認知プロセスであると考えられるようになった（Schacter et al., 2011）。つまり，記憶の歪みは，現在の文脈に応じて，新規な情報を柔軟に取り入れて記憶を更新した結果である。これにはアイデンティティの維持のために過去の記憶を歪めることも含まれる（Wilson & Ross, 2003）。

本シンポジウムはパーソナリティ症（PD）の記憶の歪みに焦点を当てる。境界性PD や自己愛性PD に代表される B 群パーソナリティ症では，その劇的な対人関係ゆえに，記憶の歪みが現れやすい可能性が指摘されている（Sajjadi et al., 2023; Rhodewalt & Eddings, 2002）。ここに現実検討能力の低下が加わることにより，出来事の真実性についての強い信念が形成される可能性がある。

被害事例の False memory 研究と対照的に，PD を対象とした（自伝的）記憶の歪みに関する研究は驚くほど少ない。PD における記憶の歪みはどのようなパターンで生じ，どのような機能を有しているか，自己呈示に過ぎないのかそれとも真実であるという信念が関与しているのか，本シンポジウムではこれらの疑問に迫る。

2. 話題提供者の要旨

2.1. 「B 群パーソナリティ症における False Memory」

松本 昇（信州大学）

本話題提供では False memory に関する先行研究を概観し，B 群パーソナリティ症に対する知見の適用について議論する。False memory 研究の二大パラダイムは，DRM に代表される，自然発生的 False memory と，事後誤情報効果に代表される，暗示誘導性 False memory である（Otgaar, 2017）。

DRM パラダイムを用いた研究では，境界性PD や自己愛性PD において False memory が頻発するという証拠は得られていない（Armstrong, 2019; Miano et al., 2022; Schilling et al., 2013; Sajjadi et al., 2023）。暗示誘導性 False memory については PD との関連がほとんど検討されていないが，関連する知見として，自己愛傾向やサイコパシー傾向は誤情報に対する信念の強さと関連することが示されている（Calvillo et al., 2024）。

他に，False memory に関与しうる重要な個人差変数として解離がある。ネガティブな情動に対するコーピングとしての解離は事後誤情報による False memory を増加させることが示唆されている（Erceg et al., 2025）。境界性PD の症状としてしばしば観察される情動調節困難とそれに伴う解離は，事後情報による失われた記憶の再構成を通じて False memory を形成する可能性がある。

PD の診断単位ではなく，症状や不適応的なパーソナリティの次元単位での検証，そして文脈に応じた（特に自伝的な題材における）それらの役割の検討は，PD と記憶の歪みの関係の解明に寄与するかもしれない。

2.2. 「自己愛性パーソナリティ症における自伝的記憶の自己機能」

田上 恭子 (久留米大学)

本誌提供では自己愛傾向における自伝的記憶の自己機能を検討した質問紙調査研究の結果を報告し、自己愛性パーソナリティ症における記憶の歪みについて論じる。

自伝的記憶とは自己に関連する情報についての記憶である。近年、自伝的記憶をめぐる現象が人間の活動や適応においてどのような機能を果たしているのかという自伝的記憶の機能への関心が高まっている。これまで自伝的記憶の機能として、自己機能、社会機能、方向づけ機能などが見出されている。

自伝的記憶の自己機能とは、自伝的記憶が自己の連続性や一貫性の感覚を維持し、自己概念を維持・強化するという機能であり、過去の出来事に対する主観的・時間的距離や自伝的記憶の想起の視点などに着目した検討がなされている (Wilson & Ross, 2003)。そこでは、自己評価を維持するために、出来事との時間的距離を調整したり、想起の視点を変えたりすると論じられている。

臨時的には、自己愛者は現実もしくは現実における自分の立ち位置を歪めやすいことが観察されている (Rhodewalt & Eddings, 2002)。自己愛の記憶に着目した実証研究は多いとはいえないが、たとえば Marchlewska & Cichocka (2017) は自己愛傾向が高いと自己脅威的記憶を三人称的視点で想起することを報告している。

本誌提供では、自己愛傾向と主観的・時間的距離及び想起の視点との関係について検討した研究結果を報告し、自伝的記憶の自己機能という点から自己愛性パーソナリティ症の記憶の歪みについて考えたい。

引用文献

- Marchlewska, M., & Cichocka, A. (2017). An autobiographical gateway: Narcissists avoid first-person visual perspective while retrieving self-threatening memories. *Journal of Experimental Social Psychology*, 68, 157-161.
- Rhodewalt, F., & Eddings, S. K. (2002). Narcissus reflects: Memory distortion in response to ego-relevant feedback among high- and low-narcissistic men. *Journal of Research in Personality*, 36, 97-116.
- Wilson, A. E., & Ross, M. (2003). The identity function of autobiographical memory: Time is on our side. *Memory*, 11 (2), 137-149.

2.3. 「パーソナリティ症の自己呈示」

櫛引 夏歩 (弘前大学)

パーソナリティ症 (PD) における自己呈示の在り方や、各PDに特徴的な自己呈示方略について、いくつかの研究が行われている。例えば、近年注目されている不適応的パーソナリティ特性のうち、境界性PDや回避性PDなどに関連する「否定的感情」は、自分の価値を示すような自己呈示方略や、恩返し、謝罪、懇願といった自己呈示方略と関連することが示されている (Hart et al., 2020)。

自己呈示は他者に特定のイメージを与えるために、戦略的かつ情動的に行われることがある一方で、個人が有する自己概念が自己呈示を方向づけている場合もある。自己概念は比較的安定しているものの、自身の行動や他者からのフィードバックで形成・変容することもある。そのため、他者に対して自己概念に基づいた自己呈示を行い、他者からのフィードバックを受け取った結果、当人の自己概念に何らかの影響を及ぼす可能性がある。このような自己と他者との相互作用過程の中で、自己概念の変容や記憶の歪みが生じると考えられる。

自己呈示を含むPDの対人行動は、他者から否定的な評価を受けることが多い (Hepp et al., 2018)。他者から否定的なフィードバックを受け取ることで、自己概念が否定的な方向に変容し、否定的な自己概念を自己呈示するという循環が形成されている可能性があり、これにより、PDの対人関係はより困難になると推察される。

そこで、本誌提供では、PDにおける自己呈示と自己概念、さらには記憶の変容に関して、先行研究および発表者が行った研究結果を紹介する。特に、自己呈示が記憶として記憶の再構成・歪みに関与しているのか、そのプロセスを整理し、PDに特有の対人困難との関係について考察を深めていきたい。

引用文献

- Hepp, J., Störkel, L. M., Kieslich, P. J., Schmahl, C., & Niedtfeld, I. (2018). Negative evaluation of individuals with borderline personality disorder at zero acquaintance. *Behaviour research and therapy*, 111, 84-91. <https://doi.org/10.1016/j.brat.2018.09.009>
- Hart, W., Tortoriello, G. K., & Richardson, K. (2020). Profiling personality-disorder traits on self-presentation tactic use. *Personality and Individual Differences*, 156. doi: <https://doi.org/10.1016/j.paid.2019.109793>



仮想空間とパーソナリティ

企画者：日本パーソナリティ心理学会第34回大会準備委員会

司会者：三和 秀平（信州大学）

話題提供者：藤澤 文（鎌倉女子大学），市村 賢士郎（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構），三和 秀平（信州大学）

指定討論者：佐藤 広英（信州大学）

1. 企画主旨

第5期科学技術基本計画（内閣府,2016）では、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」としてSociety 5.0が提唱された。科学技術の進歩に伴い，仮想空間での心理学研究も行われるようになっていく。仮想空間は，現実世界では実現が難しい状況の再現や，アイデンティティの自由な操作，高い没入感といった特徴を持ち，従来の研究手法では捉えきれなかった人間の側面を探究する手段として期待される。

本シンポジウムでは，1. 教育場面におけるVR技術の活用，2. 仮想空間が創造性や他者理解能力に及ぼす影響，3. 不登校支援における仮想空間の可能性という3つの視点から，仮想空間を活用した心理学研究の最新の知見を共有しつつ，活用している機器についても紹介する。そのうえで，仮想空間での心理学研究の特徴やメリット/デメリットおよび今後の発展について考えていく。

引用文献

内閣府 (2016). 第5期科学技術基本計画 内閣府 Retrieved May 7 2025, from <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html>

2. 話題提供者の要旨

2.1. 「バーチャルリアリティ（VR）技術の魅力：アバターを着用して行う体験」

藤澤文（鎌倉女子大学）

VR技術を教育場面で活用することには様々な魅力がある。本発表では，その中でも，VR技術の活用が学習への内発的動機付けを高める（Bailenson,2017），協同に向

いている（Almeman et al., 2025; Venkatapura, 2025），仮想空間（VS）で着用するアバターの視点を取得しやすくなる（VR perspective taking=VRPT）といった特徴を踏まえて開発したVSを用いて行った実験を紹介する。

具体的には，アバターを着用したVRモラルジレンマ討論では自分の意見を言いやすくなるか，モラルジレンマストーリーの主人公アバターを着用し，そのストーリーを模したVSにおいてその役割を演じること（VR role play=VRRP）により視点取得が高まるか，VSでの協同学習の参加者全員が同じ衣装のアバターを着用することは集団凝集性を高めるか，ペアでの協同学習に参加するペアアバターは同じ性別ペアと異なる性別ペアでは学習達成は異なるか，VSにおいてペアでの協同学習と競争学習では学習の完成（正確さ，速さ）は異なるか，外国人風アバターを着用した外国語学習は学習への動機づけを高めるか，探索型学習では場面想定をするよりもVSで大学生（等身大）アバター/探偵アバターを着用して体験の方が学習は進むかあるいは学習の継続につながるか，などについて実験を行っている（Figure1参照）。これらの結果について時間の許す限り紹介し，本シンポジウムの議論につなげたい。

Figure1：VR協同学習の様子（Fujisawa,2025）



参考文献

本稿に掲載した研究の多くは下記に VS の写真付きで掲載しており、視覚的にご覧いただけます。Aya Fujisawa とご入力ください。 <https://www.researchgate.net/>

2.2. 「仮想空間での創造的思考や他者理解」

市村賢士郎（大学改革支援・学位授与機構）

本話題提供では、360 度映像とヘッドマウントディスプレイ（以下、HMD とする）を用いて、仮想空間が創造性や他者理解能力に及ぼす影響を検討した以下の 2 つの研究を紹介する。その結果と経験を踏まえて、HMD を用いた心理学研究の可能性について議論する。

実空間における研究では、環境への没入度の高さや、自由の概念を活性化しうる環境が、創造性を高めることが知られている (Meyers-Levy & Zhu, 2007; Planica et al., 2019)。本研究では、こうした実空間でみられる効果が、仮想空間でも再現できるかを検証した。実験 1 では、環境への没入度の影響を明らかにするため、海岸の 360 度映像を視聴する媒体を実験操作した (HMD 群・PC モニター群)。各媒体で映像を視聴中に行った AUT のスコアを比較した結果、HMD 群のスコアは PC モニター群よりも高いことが示された。実験 2 では、環境の視覚的広さの影響を明らかにするため、HMD で視聴する 360 度映像の内容を実験操作した (海岸群・実験室群)、各映像を視聴中に行った AUT スコアを比較した結果、海岸群のスコアは実験室群よりも高いことが示された。

他者理解能力に関する研究では、演劇創造における物語への没入の影響が明らかにされている (渡邊・楠見, 2021)。本研究では、HMD を用いて、物語により没入しやすくした演劇創造の効果を検証した。実験では、演劇の 360 度映像を用いて、演技を遂行する群、演技を鑑賞する群、戯曲要約を行う群を設けた。各演劇体験を行った前後の他者理解能力に関する指標を比較した結果、演技遂行群における他者理解能力の促進効果は、演技鑑賞群との間には差が見られなかったが、戯曲要約群と比べて高いことが示された。

引用文献

Meyers-Levy, J., & Zhu, R. (2007). The influence of ceiling height: The effect of priming on the type of processing that people use. *Journal of consumer research*, 34(2), 174-186.

Palanica, A., Lyons, A., Cooper, M., Lee, A., & Fossat, Y.

(2019). A comparison of nature and urban environments on creative thinking across different levels of reality. *Journal of Environmental Psychology*, 63, 44-51.

渡邊 智也・楠見 孝 (2021). 演劇体験が社会的能力に及ぼす促進効果の実験的検討 認知科学, 28(1), 122-138.

2.3. 「仮想空間における不登校支援の取り組み」

三和秀平（信州大学）

令和 5 年度の不登校児童生徒数は 346,482 名にのぼり、前年度 (299,048 名) から増加している。このような状況に対応するために文部科学省 (2023) は「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLO プラン」」を掲げた。COCOLO プランでは、メタバースの活用についても述べられているものの、仮想空間上での支援は始まったばかりで情報は十分とは言えない。メタバース空間では、名前やアバターを自在に変えることができ、アイデンティティを自由にデザインするなどの「アイデンティティのコスプレ」や物理世界に介在していたフィルターを恣意的にデザインし、コミュニケーションを加速させる「コミュニケーションのコスプレ」が可能である (バーチャル美少女ねむ, 2022)。このような特徴は、不登校支援においても大きなメリットになると思われる。

本話題提供では、長野県内の教育支援センターで実施されている Minecraft 等を用いた仮想空間での不登校支援の取り組みについて紹介する。仮想空間での通所から実際の施設や学校につながった事例があり、一定の効果はみられている。一方で、つなぐことができていない児童生徒がいることや、定期的に行っている調査で仮想空間での通所による気分変化などが十分には確認できていない等の課題も多い。このような事例について取り上げつつ、仮想空間での不登校支援や教育への応用の可能性について考えていく。

引用文献

文部科学省 (2023). 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 (COCOLO プラン) について 文部科学省 Retrieved May 7, 2025, from https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1397802_00005.htm

バーチャル美少女ねむ (2022). メタバース進化論—仮想現実の荒野に芽吹く「解放」と「創造」の新世界— 技術評論社



信州における岳問のススメ ー深山幽谷に心理学を養うー

企画者：日本パーソナリティ心理学会第34回大会準備委員会

司会者：菊池 聡（信州大学人文学部）

話題提供者：菊池 聡（信州大学人文学部）、岡本 卓也（信州大学人文学部）、
矢原 ひかり（信州大学環境マインド推進センター）

指定討論者：武田 美亜（青山学院大学）

1. 企画主旨

日本の国土は、75%が山地で占められており、そのほとんどが森林に覆われている。中でも長野県は標高1,000m以上の土地が県土の約55%を占めており、県の平均標高は1,132mで全国1位の高さを誇っている。

こうした厳しい山岳自然環境は、他に類を見ない美しい景観と四季の変化を生み、多様な生き物の命を育んできた、また、そこに生きる人々に独特の心理、文化、社会、産業、信仰をもたらしている。長野県は長寿県としても知られ、他にない体験を求めて多くの観光客が訪れるだけでなく、各種の地方移住希望地ランキングにおいても、県内の多くの都市が常に上位に名を連ねている。

この信州の地で開催される本学会では、集った研究者の皆様がそれぞれの研究テーマを深めていただくとともに、都会を離れた自然豊かな環境や文化に身を置きながら、ふだんとはまた違った心理学を考えるよい機会としていただければと願っている。

本企画においては、この信州山岳地帯での学問という切り口からいくつかの話題提供を行い、信州を訪ねた参加者の皆さんとともに、「岳問（がくもん）」の高地トレーニングを楽しみたい。

2. 話題提供者の要旨

2.1. 「山と森、清水に暮らす」

菊池聡（信州大学人文学部）

長野県を特徴づける美しい山々や溪谷、温泉の数々は、実は自然災害の危機の裏返しでもある。日本でも有数の活断層帯が県内を走り。常時監視対象の50火山のうち、7火山が長野県内にある。急峻な山々は無数の土石流危険地帯を生み出している。

話題提供者は、信州大学地域防災減災センターを預かり心理学の観点から地域の防災力向上に取り組んできた。センターの目標として防災リーダーの育成を掲げ、信州大学では授業を通しての「防災士資格」取得を推進し、この二年で百名以上の防災士を送り出すことができた。こうした取り組みが多く大学の教育機関でなされることを期待し、地域防災減災センターでのケースを紹介し、地域の防災力向上と地域貢献に心理学が果たす役割を提案する。

閑話休題、次いで他県出身の話題提供者が信州の地で出会った岳問のネタについてもいくつか紹介したい。観光立県として「癒し」の自然・森林環境推進に見え隠れする疑似科学、コンテンツツーリズム流行の中で長野を「聖地巡礼」の発祥の地とする論争、などトリビアな岳問も、山また山を越えて集っていただいた皆様に楽しんでもらいたい。

2.2. 「山歩きと自己過程の心理学」

岡本卓也 (信州大学人文学部)

“そこに山があるから”

山登りを全くしない人でも知っているであろう、この言葉。“Why did you want to climb Mount Everest?”という新聞記者に対する“Because it's there”という登山家マロリーの返答である。日本では「山に登る理由など無い、ただ山が好きだから登るのだ」「そんなこと聞くことが野暮だ」といったように解釈をされがちで、多くの登山家たちの共感を得ている。山に囲まれた信州松本。辺りを見渡せば山ばかりだが、人は理由も無く、そこに山があるだけで山に登るのだろうか。いや、そんなことはないだろう。

話題提供者は、いささか無粋ではあるが、質問紙(1.5Kg!)を担いで北アルプスに登り、山頂付近で1週間以上にわたり登山者を対象に調査を実施した。山頂で感動に浸るハイカーは何に感動を覚えているのか、山頂での長い夜に暇を持てあます登山者たちが語る山登りの意味とは。これらの調査は、身近に山があるからこそ実施、継続することの出来た。様々な調査から見えてきた、山登りと自己過程の関係について話題提供する。

また話題提供者は、宗教的巡礼である四国の歩き遍路や、“山頂”という分かりやすい到達点のない様々な長距離歩行者を対象とした調査も行ってきた。これらの調査との比較から見えてきた、歩くことの心理的効果についても話題提供できればと思っている。

2.3. 「山とともに学ぶ」

矢原ひかり

(信州大学環境マインド推進センター)

信州大学は、豊かな自然と山岳に囲まれている。たとえば長野県内に5つあるキャンパスの1つ、伊那キャンパスは標高約770mと、国立大学の中でも最も高い場所にある。農学部西駒演習林は標高1200～2600mの範囲に広がり、ブナやシラビソ、ハイマツなど多様な植生が連なる。これほどの標高差と広大な天然林を有する大学演習林は全国的にも珍しく、信州大学にとって山岳がいかに身近な存在であるかがうかがえる。この恵まれた環境を活かし、本学では山岳科学研究とともに、山岳を含む身近な自然環境をフィールドとした環境教育にも力を注いでいる。

山岳には、急峻な地形や厳しい気象条件の中で、ライチョウや高山植物など、ここでしか見られない独自の生態系が息づいている。一方で、環境変化に非常に敏感で、地球温暖化などグローバルな環境問題の影響をいち早く受ける場所でもある。情報提供者の高山域での研究や信州の自然をフィールドとした環境教育の経験を交えながら、信州大学の山岳にまつわる研究と教育の現場を紹介する。山岳というフィールドの魅力と、そこから見えてくる環境問題へのアプローチについて、皆さまと共有できれば幸いである。



人が他人を助けるとき —援助行動研究の新たな視座—

企画者:日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会者:臼倉 瞳(東北学院大学)

話題提供者:内山 有美(鳴門教育大学), 登張 真穂(文教大学生生活科学研究所),
下司 忠大(立正大学)

指定討論者:小田 亮(名古屋工業大学)

1. 企画主旨

社会通念上,人々が互いに助け合うことは望ましいとされている。援助研究には大きく2つの流れがあり,第1の流れは,援助の生起に関するモデル化や向社会的行動獲得の発達機序に関する研究,第2の流れは,ソーシャルサポート研究とも合流し,援助の要請や援助後の反応へと研究領域を広げて実社会における援助のあり方を検討する研究であるとされる(松井,2001)。昨今のパーソナリティ研究に目を向けてみると,第2の流れだけでなく第1の流れを汲む研究の発展も目覚ましい。

そこで本シンポジウムでは,援助行動や援助行動の生起と関連が深い概念について独自の着眼点で研究に取り組まれている3名の研究者に話題提供をしていただく。そして,指定討論とフロアディスカッションを通じて,「人が他人を助ける」ことに関して,各研究領域の発展可能性,知見の社会への応用に関する展望などについて議論したい。

引用文献

松井 豊(2001).書評(高木修(監修)西川正之(編集)(2000).シリーズ21世紀の社会心理学4 援助とサポートの社会心理学—助けあう人間のこころと行動—(北大路書房) 社会心理学研究,16(3),193-194.

2. 話題提供者の要旨

2.1.「援助行動を育成する革新的アプローチ」

内山 有美(鳴門教育大学)

人が他者を助ける行動は,従来の想定をはるかに超えた発達初期段階から芽吹き始めるのではないかと。これま

での研究から,乳幼児でみられる援助の意義の認識や実際の援助行動の実行については,発達心理学および進化心理学の観点からも注目されている。発達早期より育まれた援助行動の萌芽は,保育・教育環境や地域コミュニティに触れる機会により,様々な価値観や規範の中でさらに洗練されていき,他者との交流を深め,社会集団への参加に必要な準備を進めることが期待される。この過程で,援助行動は社会的なつながりに寄与し,将来的には互恵的な友人関係を形成する基盤ともなり得る。そのため,この時期は援助行動を育成する上で極めて重要な時期であると考ええる。

筆者は,保育・教育環境にいる3歳児クラスの幼児に対して,援助行動の適切性や必要性に関する教育・教示を行わず,環境内で想定される援助行動に関する視覚刺激を呈示することによってのみ,実際の行動が表出されるか検証した。その結果,無関係な視覚刺激を用いた統制群に比べ,実験群において多くの援助行動の表出が確認された(内山,2023)。この成果を基に,幼児集団に対するユニバーサル介入の効果を検証したところ,広範囲にわたる介入効果が認められた。これらの実験や介入手法は,いずれも,援助行動を高めるために幼児自身の努力や意識付けを求めることなく実施された。さらに現在は,研究チームを構成し,幼児の遊びの中で適用可能な介入手法についても検討を進めている。

本発表では,これまでの実験研究や実践活動から得られた成果を報告し,効果的な介入方法の確立に向けた今後の課題についても議論を深めていきたいと考えている。

引用文献

内山 有美 (2023). 幼児の援助行動における目標プライミングの効果 パーソナリティ研究, 32, 122-124.

2.2. 「共感における3側面の関連性に注目する」

登張 真稲 (文教大学生生活科学研究所)

共感 (empathy) には, (1) 他者と同じ感情を体験・共有すること, (2) 他者の気持ちを推測し理解しようとする, (3) 他者を助けたい・力になりたいと思うこと (共感的関心) の3つの側面があるという見方がある (Zaki & Ochsner, 2012 など)。共感の理論家たちは, この3つの側面について, 次のように述べている。

イギリスの哲学者ヒューム (1739 石川他訳 2011) は, 人々の間では感情が伝わりやすく同じ気持ちになりやすいこと (1) に注目し, それを sympathy と呼んだ。スミス (1759 水田訳 2003) は, 私たちは悲惨な体験をしている他者を見ると, 彼の境遇に身を置いて彼の気持ちを想像して (2), 類似した気持ちを経験し (1), それは他者の悲劇に対する同胞感情の源泉となる (3) と述べた。

ホフマン (2000 菊池・二宮訳 2001) は, 他者の苦痛体験を観察した人は, 自分を他者の立場において気持ちを想像し (2), 自分も苦痛を感じ (1), 他者の苦痛を軽減したいと思う (3) と述べた。

ロジャーズ (1975 畠瀬訳 2007) は, 不安で混乱しているクライアントに寄り添い, 真摯に話を聞き, 相手の心の中に入り込んで彼が体験している気持ちとその意味を感じ取り (1) (2), その理解を伝えて, 感じたことの正確さを確認し, クライアントが受容され理解されたと感じ, 健全な方向に成長する力になろうとした (3)。

このように, 異なる用語が用いられることもあるが, 共感理論家の共感概念には, 概して (1) (2) (3) の3側面が含まれている。(3) と (2) が向社会的行動と関連することを示すエビデンスはあるが (Eisenberg et al., 1999), 3側面が協同して, 他者の援助に役立つことも多いのではないかと考えられる。

引用文献

Zaki, J., & Ochsner, K. (2012). The neuroscience of empathy: progress, pitfalls and promise. *Nature Neuroscience*, 15, 675-680. その他省略

2.3. 「利己性が利他性を生むとき—Dark Triad から見た援助行動の再考—」

下司 忠大 (立正大学)

Dark Triad とは, 冷淡で他者操作的な特徴を有する3つのパーソナリティ特性の総称であり, マキャベリアニズム, サイコパシー傾向, 自己愛傾向で構成される。以上の特徴は援助行動や向社会的行動とは正反対のものであり, 一見すると無関係の特性のようにも思われる。他方で, 下司・小塩 (2020) のレビュー論文で論じられたように, Dark Triad 傾向の高い人々は, 向社会的に行動するインセンティブがある状況下においては, Dark Triad 傾向が低い人々よりもむしろ向社会的に行動することが考えられる。向社会的行動の個人差の背景には協調性や共感性があるとされる一方で, Dark Triad 傾向の高さも向社会的行動に寄与するとすれば, 社会全体の援助行動の向上に向けた議論の可能性が示唆される。

他方で, Dark Triad 傾向が高い人々の向社会的行動を引き出すうえで, その「副作用」についても考慮に入れる必要があるだろう。浦 (2020) はサイコパシー傾向が高い人々に対してインセンティブを用いて向社会的行動を引き出そうとする場合には, サイコパシー傾向が低い人々の利他的な向社会的行動が抑制される可能性を指摘している。また, サイコパシー傾向が高い人々に対してインセンティブを用いると反社会的行動を同時に引き出してしまふという問題等が指摘されている。

以上の点を踏まえ, 本話題提供では社会全体の援助行動の向上を Dark Triad の観点から議論する。インセンティブの効用とその副作用について, 近年のレビューも踏まえて議論することによって, Dark Triad の観点からの援助行動研究の意義や社会的貢献について論じたい。

引用文献

下司 忠大・小塩 真司 (2020). Dark Triad と向社会性—向社会的な社会に向けて— 心理学評論, 63(4), 422-432.



大村政男の地域性（県民性）研究のまとめ —大村政男生誕100年を記念して—

企画・司会・話題提供者：浮谷 秀一（東京富士大学）

話題提供者：中村 真（江戸川大学）

話題提供者：岡田 努（金沢大学）

指定討論者：藤田 圭一（日本体育大学）

1. 企画主旨

1925年生まれの大村政男が2015年に満90歳で亡くなっている。2025年は大村政男の生誕100年目にあたる。そこで、これまでの大村政男が進めてきた渡部徹著『新旧人国記』を基にした地域性についての研究を振り返り、沖縄県と石川県に比較的長く過ごした2人の研究者にその地域について話をしていただき、現代はどうなっているかを検討しようとするのが企画主旨である。

まず浮谷が、大村政男と浮谷ではじめ、のちに藤田圭一が加わって第14回大会から第20回大会まで続けてきた研究発表について紹介する。年次大会が開催される地域をできるだけ考慮して、研究発表のテーマを設定しながら進めてきた。岩手大学で開催された第14回大会では「東北人」を、東京富士大学で開催された第15回大会では「九州人」を、帯広畜産大学で開催された第16回大会では「北海道人」を、お茶の水女子大学で開催された第17回大会では「関東人」を、川崎医療大学で開催された第18回大会では「中国人」「四国人」を、慶應義塾大学で開催された第19回大会では「北陸人」「近畿人」「東海人」を、京都光華女子大学で開催された第20回大会では「岐阜人（濃州、美濃国人）」「長野県人（信州人、信濃国人）」「山梨人（甲州人、甲斐国人）」という展開である。それぞれに地域について、その地域特有の多彩な観点から記述されており、各地域の特徴を的確に捉えている。

次に中村 真が高校時代まで過ごした沖縄について、岡田 努が比較的長く過ごした石川県（北陸地方）について話題提供をいただき、指定討論者藤田圭一にまとめていただくという展開である。

2. 話題提供者の要旨

2.1. 「大村政男の研究発表——」

浮谷秀一（東京富士大学）

一連の研究発表は、渡部徹著『新旧人国記』を基にして、各地域特有の観点を加えて進められている。祖父江孝男(2000)は県民性と称しているが、郷土性ということばでも地域差を記述している。ここでは、研究発表の順ではなく、北海道から九州までと日本列島を北から南へと順に紹介していく。しかし、紹介することが多くすべての地域について振り返ることができないので、当日改めて紹介させていただく。

北海道人については、『新旧人国記』では蝦夷地として空白になっているが、1976(昭和51)年9月に中央大学で開催された日本心理学会第40回大会において当時室蘭工業大学の馬場雄二が「北海道人に関する風土心理学的考察」を発表し、「北海道人は“冬”を受動的に受け止め、そのかわりあいなかで性格特性を構成している（後略）」と述べ、忍耐的、忍耐的なものをその特質として指摘している。これが県民性、郷土性といえる。

東北人の郷土性は、隔地・大雪・山岳・藩政の相乗で形成されたと結論づけられる。

関東人の郷土性は、縄文・弥生時代における人の交流、居住地の風土、海洋の様相などのほか封建時代の藩の教育も加わって形成されたといえる。現在でも残っているものとして、千葉県黒潮気質、茨木県の「三（い）怒り（い）骨（い）理屈（い）」、群馬県の上州気質がある。

東海人の郷土性は、多彩であるが名古屋人は「偉大なる

田舎者」と呼ばれるぐらい儉約家である。グアム島の密林のなかで27年も頑張った横井庄一軍曹は、名古屋近郊の人で、発見されたときに「実印」を所持していたというのはそれを物語っている。

北陸人の郷土性は、岡田 努の話題提供に譲る。

山梨人の郷土性は、祖父江孝男(2000)によるときわめて鼻っぺしが強く敢闘精神旺盛、執念深く円満さに欠けると記載されている。

長野人の郷土性は、祖父江孝男(2000) 勤勉さ、責任感の強さ、理屈っぽさと記述している。

岐阜人の郷土性は、山また山の飛騨地方と木曽川・長良川・揖斐川流域の美濃平野から構成されており、この両地域の社会的・風土的な差異で形成されている。

これ以降は紹介を当日に譲るが、今回は研究発表になかった沖縄県について中村 真が話題提供してくれることになり、いろいろな角度・視点からであるが日本全国を網羅できた。

2.2. 「沖縄人の特質」 中村 真 (江戸川大学)

沖縄の地域性について学術的な観点で検討した経験はほとんどないが、ここでは、沖縄で生まれ育ち、郷土意識も人一倍高い方であると自認する立場から、出身者ならではの知識と体験をベースに話題提供させていただきたいと考える。

祖父江(1993)によると、沖縄人の県民性は、「おとなしい」「引っ込み思案」「人懐っこい」「やさしさ」などであるという。また、大城(1972)が沖縄人の自己像に関する研究において明らかにした性格特性は、「のんき」「ひとがみしい」「おおらか」「人情に厚い」「自由な」「正直」などであった。沖縄人はソーシャル・アイデンティティが高く、県民の一人として自己を認知する傾向が強いので、これらの沖縄的性格を個人的にも持っていると思える傾向があるとされる。ここで言う「のんき」「おおらか」は見方を変えれば、ルーズさにもつながる。しばしば、時間に緩慢な沖縄人が「ウチナータイム」(沖縄時間)と揶揄される所以である。また、「やさしさ」「人情に厚い」は、地縁・血縁を重視する意識の高さとなって現れる特性であり、沖縄では結婚披露宴の招待客が数百人規模になることも珍しくはない。そして、競争よりも助け合いや融和を重視する精神(「ゆいまーる」)が根付いている。「ゆいまーる」は沖縄の方言で「助け合い」「共同作業」を意味する。直訳すると、「結びつきを循環させる」といったニュアンスである。)

一方、東江(1991)は、沖縄人の意識構造に関する論考において、沖縄人の性格あるいは行動様式を最も的確に表す特徴として「事大主義」を挙げている。これは、確固たる主義信条を持たずにただ強大な者に追従して姑息な存在の維持を志向する態度や考え方を意味する。沖縄の地理的、社会的、そして歴史的条件がその醸成を促したと思われるが、沖縄の地域性や県民性を考えるうえで欠くことのできない重要な心性である。

2.3. 「北陸人・金沢人の特質」 岡田 努 (金沢大学)

不勉強なことにパーソナリティの地域性研究についてはほとんど知識がない。四半世紀余り北陸の地で暮らしただけの「旅の人」から見た「個人の感想」を語らせていただきたい。

大村・藤田・浮谷(2010)の文献研究によると、加賀国人は爪を隠して身を保つとされ、また能登国の者は心が偏狭で国外に出ることなく仕方なく現状に辛抱するといった記述が見られるという。一方、吉野・小塩(2021)の実証的研究では、北陸地方では「協調性」特性が九州東部・沖縄に比べ低いことが報告されている。

しかしこれらの地域区分はそれぞれ異なっており比較が難しい。北陸あるいは新潟を含んだ日本海側の若者についてよく聞くのは、引っ込み思案という点である。生真面目にコツコツと物事に取り組むがシャイで目立つことを嫌う。実際授業は私語も少なくやりやすいが、反応も薄く気持ちが見えにくいこともある。

石川県内に目を転じると、加賀と能登は気候も文化も異なっている。加賀の中心を自認する金沢の特質の一つは「プライドの高さ」であろう。多少の誇張もあるだろうが、値引き品よりも定価品の方がよく売れる、県外観光地で土産物を見ても「金沢の方がよい物がある」といって買わない、京都に対しては複雑な感情があり「小京都」と呼ばれることを嫌うといった話は有名である。どこまで本当だろう。一方、奥能登地域は外部との交流が乏しい閉鎖的な環境の土地であった。能登半島地震の後、多くの支援者がこの地に入り救援や復興にあたった。とても有り難い一方で、生活環境が破壊されたストレス下で、加えて見知らぬ人と長期に接し続けるストレスも小さくはなかっただろうと、この地をよく知り支援に当たった同僚から聞いた。地方での災害支援を考える上で一つの課題かもしれない。



心理的状況研究の最前線(4)

企画者・司会者:堀毛一也(東洋大学人間科学総合研究所・岩手大学名誉教授)

話題提供者:田中麻未(帝京大学)

話題提供者:齊藤 彩(お茶の水女子大学)

話題提供者:沓澤 岳(産業技術総合研究所)

話題提供者:堀毛一也(東洋大学)

指定討論者:杉山憲司(東洋大学名誉教授)

1. 企画主旨

心理的状況に関する関心は、Mischel(1968)のパーソナリティ研究以降、継続的に展開されてきた。とりわけ、1970年代から90年代にかけて展開された人間一状況論争では、「状況」に関する考え方の整理が重要なトピックとして重視され、さまざまな論議が行われた(Krahe,1992)。けれども最近まで、状況の概念的定義や理解の枠組みについては定まらないままであった。たとえばパーソナリティ研究で著名なデ・ラード(De Raad, 2005)は、「相互作用論の論議の中でも状況の重要性は指摘されてきたが、系統的な理解には至っていない。質問紙でも状況的な特徴の統合的表象は整理できていない」と指摘した。また、ファンダー(Funder,2008)も、「これまでの研究で扱われてきた状況的変数は、そのほとんどがその場その場(ad hoc)的に、研究ごとに定められてきた」と論じている(堀毛,2014)。本学会でも、80年代を中心に青木孝悦氏らを中心に状況に関するシンポジウムが組まれ、2011年にはFunder、2023年にはRauthmannを招聘し、刺激的な講演が行われたが、状況研究に広範な関心が向けられるには至っていない。

こうした中で、先に紹介したFunder(2006)は、「パーソナリティ三相説(personality triad)」を提唱し、人間のパーソナリティ、行動、状況を同時に検討することの重要性を論じ、検討のためのツールとして、Q分類法を基盤としたパーソナリティの測定道具であるCalifornia Adult Q-Set(CAQ:Bem&Funder,1978)と

ともに、行動評価ツールとしてのThe Riverside Behavioral Q-set(RBQ:Funder,et al,2000)や、状況評価のためのRiverside Situational Q-sort(RSQ:Funder,et al,2016)を考案した。これらの技法を用いた国際状況プロジェクト(ISP)では、我が国を含め62ヶ国のデータによる文化比較が試みられているが(Lee, et al,2020)、本邦ではその成果について、未だ紹介がなされていない。さらに、Rauthmann, Sherman, & Funder(2015)によりEuropean Journal of Personalityに掲載された論文は、「状況研究のランドマーク(Mroczek & Condon,2015)」として評価され、欧米では再び状況研究への関心が高まっている(堀毛,2020)。またRauthmann(2021)は、”The Handbook of Personality Dynamics and Processes”という3,000頁を超える著作の中で、200頁を超える章を設け、人間一状況の関係モデルとして、状況理解を含めたきわめて詳細な論考を展開するとともに、DIAMONDS、CAPTIONなど、6種の評定尺度(Situation Six)について整理している。

さらにネットで公開され、紙媒体でも出版された、Rauthmann,ら.(eds.,2017,2020)による”The Oxford Handbook of Psychological Situation”は、31章、500頁を超える大著であり、心理的状況研究の最新の流れを通覧する好著となっている(2025、福村出版より翻訳刊行予定)。本ワークショップでは、本書の翻訳に携わった4名の方々に話題提供をお願いし、状況研究の進展について論議したい。田中麻未氏には、「Big Five 状態に

対する影響による状況の特徴の整理（仮）」という演題のもと、Hartley ら,(2020) を基盤に、状況特徴と性格の関連を Big Five を中心に論じていただく。齊藤彩氏には、「生涯にわたる人と状況の相互影響関係（仮）」という演題で、Croker & Donnellan (2020) の論考を中心に、ライフコース理論と呼ばれる相互作用論的アプローチによる、発達の観点からの人と状況の相互影響関係に関する理解の仕方について論じていただく。沓澤岳氏には、「生態学的サンプリング法（仮）」という表題で、Wrzus & Mehl (2020) の論考を中心に、日常生活状況を生態学的に評価することの重要性についてご指摘いただく。堀毛一也氏には、「人と状況の非線形的相互作用（NIPS）モデル（仮）」という演題で、Blum & Schmitt (2020) の提唱する人と状況の相互作用を非線形的に理解することの重要性について指摘をいただく。指定討論を、この領域の研究の歴史的展開にお詳しい杉山憲司氏にお願いし、コメントを頂戴することとした。

【引用文献】

De Raad,B. 2005 Situations that matter to personality. In Elias,et al.(eds.) *Advances in Personality Psychology (vol.2)* Psychology Press.

Donnellan,M.B., Lucas,R.E. & Fleeson,W. 2009 Introduction to personality and assessment at age 40: Reflections on the legacy of the person-situation debate and the future of person-situation integration. *Journal of Research in Personality*, 43,117-119.

Funder,D.C. 2006 Towards a resolution of the personality triad: Persons, situations, and behaviors. *Journal of Research in Personality*,40, 21-34

Funder,D.C, 2008 Persons, situations, and person-situation interactions. In O. P. John, R. W. Robbins, & L. A. Pervin (Eds.), *Handbook of personality: Theory and research* (3rd ed., pp. 568-580). New York: Guilford.

堀毛一也 2014 パーソナリティと状況 唐沢かおり（編著）*新社会心理学*（第4章,pp.71-91）北大路書房

堀毛一也 2020 人間－状況論争は続いている 安藤清志・大島尚（監修）*心理学から見た社会*（第3章,pp41-59）. 誠信書房

Lee,D.I., Gardiner,G.,Baranski,E.,Members of the International Situations Project & Funder,D,C 2020 . Situational experience around the world: A replication and extension in 62 countries. *Journal of Personality*,

88:1091–1110.

Rauthmann,J.E. 2021 Capturing interactions. correlations, fits, and transactions: A person-environment relations model. In Rauthmann,J.E. (Eds/) *The Handbook of Personality Dynamics and Processes*. Academic Press.

Rauthmann,J.F.,Sherman,R.A. & Funder,D. (2015). Principles of situation research: Towards a better understanding of psychological situations. *European Journal of Personality*, 29,363-381.

Rauthmann,J.E.,Sherman,R.A. & Funder,D.C. (Eds) 2017,2020 *The Oxford Handbook of Psychological Situation*. Oxford U.P.

表 1:The Oxford Handbook of Psychological Situation の構成

Part One : Concepts	
1 Personality as a Situation: A Target-Centered Perspective on Social Situations	Jens B. Asendorpf
2 The Nonlinear Interaction of Person and Situation (NIPS) Model and Its Values for a Psychology of Situations	Gabriela S. Blum and Manfred Schmitt
3 Behavior Genetic Approaches for Situation Research	Daniel A. Briley
4 Other People as Situations: Relational Context Shapes Psychological Phenomena	Margaret S. Clark, Edward P. Lemay, Jr., and Henry T. Reis
5 Culture's Constraints: The Role of Situational Constraint in Cultural Systems	Michelle J. Gelfand, Neva Caluori, Sarah Genton, Jana Raver, Lisa Nishii, Lisa Leslie, and Janette Lun
6 Situational Strength Theory: A Formalized Conceptualization of a Popular Idea	Rustin D. Meyer, Elvira D. Kelly, and Nathan A. Bowling
7 Navigating Interdependent Social Situations	Catherine Moltis and Daniel Balliet
8 Evolutionary Perspectives on Situations	Nicolas A. Brown, and Oliver Sing
9 The Interpersonal Situation: An Integrative Framework for the Study of Personality, Psychopathology, and Psychotherapy	Amos L. Pinsof, Christopher J. Hopwood, and Aidan G. C. Wright
10 The Ecological Rationality of Situations: Behavior – f(Adaptive Toolboxes, Environment)	Peter M. Todd and William Revelle
11 A Personality Perspective on Situations	Joshua Witt and William Revelle
12 Functional Approaches to Representing the Interplay of Situations, Persons, and Behavior	Dustin Wood, Seth M. Spain, and P. D. Harns
Part Two: Method	
13 The Use of Virtual Reality for Understanding Situations: A Fixed Effects Design	David Gallardo-Pujol and Macia Budes-Rotger
14 Cross-Cultural Assessment of Situational Experience	Gwendolyn Gardner, Eric Baranski, and Jenina Larissa Bushar
15 Latent Variable Modeling of Person-Situation Data	Christian Geiser, Fred A. Hartz, G. Leonard Burns, and Mateu Servera
16 Computational Modeling of Person-Situation Transactions: How Accumulation of Situational Experiences Can Shape the Distributions of Trait Scores	Ronald Matus, Mike Alexander, and Wendy Johnson
17 Network Analysis for Psychological Situations	Quito Costantini and Marco Perugini
18 The Riverside Situational Q-sort	Kyle S. Seaverhager and David C. Funder
19 Naturalistic Assessment of Situations Using Mobile Sensing Methods	Gabriela M. Harns, Sandrine R. Muller, and Samuel D. Gosling
20 Ecological Sampling Methods for Studying Everyday Situations	Corinna Wirus and Matthias R. Mehl
Part Three : Taxonomies	
21 Organizing Situation Characteristics by Their Influences on Big Five States	Anselma G. Hartley, Eranda Jayachandran, and William Fleeson
22 Assessment of Situational Perceptions: Measurement Issues and a Joint Taxonomization of Persons and Situations	Kai T. Rauthmann, Johanna Ziegler, and Matthias Ziegler
23 The Lexical Approach to Situations: History, Theory, and Practice	Scott Plarignon
24 Language, Subjectivity, Culture, Comprehensiveness, and Structure: Considerations for a Classification of Situations	Gerard Saucier
25 The Psychological Characteristics of Situations: Towards an Integrated Taxonomy	John F. Rauthmann, Kai T. Rauthmann, and Ryan A. Sherman
Part Four : Applications	
26 Person-Situation Transactions across the Lifespan	Katharine S. Cooker and M. Brent Donnellan
27 Health and Situations	Nicolas A. Brown, David M. Condon, and Daniel K. Mroczek
28 What Neuroscience Can Tell Us about Social Situations: Challenges and Opportunities	Kelina J. Michalska, Gwendolyn Gardner, and Brent L. Hughes
29 Medical Situations	Patrick Morie and Kate Sweeney
30 Situations at Work: A Review of Situational Factors in Understanding Work Behavior	Robert P. Tett, Jennifer Rensdale, Sylvia Liu, and Nathan Hundley
31 The Culturally Situated Process of Personality Judgment	Yu Yang



サブカルチャー心理学への道

—我々はいかにしてサブカルチャー心理学研究に至ったか—

企画者：山岡重行（聖徳大学心理学科）

司会者：山岡重行（聖徳大学心理学科）

話題提供者：山岡重行（聖徳大学心理学科）

話題提供者：岡田 努（金沢大学人文学類）

話題提供者：菊池 聡（信州大学人文学部）

1. 企画主旨

2018年パーソナリティ心理学会第27回大会「オタクのパーソナリティ」、2021年第30回大会「サブカルチャー心理学のこれまでとこれから」、2023年第32回大会「サブカルチャー心理学の心理学的意義と科学性」。我々はパーソナリティ心理学会大会において、過去3回、サブカルチャー心理学関連のシンポジウムを行ってきた。今回は、我々がサブカルチャーを心理学的に研究するに至ったプロセスを自己開示してみたいと思う。

なぜ我々はサブカルチャーを心理学するのか。それは我々が心理学の世界で生きてきたのと同じく、サブカルチャーの世界で生きてきたからである。無論、我々が心理学者としてのキャリアの最初期からサブカルチャー心理学を研究してきたわけではない。それぞれ異なる研究領域で異なるテーマの研究から心理学者としてのキャリアをスタートさせた。我々が大学院生や駆け出しの心理学者だった頃、サブカルチャーの世界は趣味であり遊びであると見なされていた。我々より上の世代の心理学者たちからそのように見なされていただけでなく、我々自身もサブカルチャーの世界は趣味であり遊びであり、心理学者としてのキャリアの妨げになるものと考え、思っていた。山岡・堀江から、「心理学者として生きていきたいのなら、遊びはやめて心理学だけに打ち込むべきだ」と言われた経験がある。若き日の我々にとって、心理学者として生きることとサブカルチャーの世界に生きることは葛藤を生むことだった。

しかし我々は、サブカルチャーの世界に生きることをや

めなかった。心理学の世界に生きようになるよりもずっと以前から、我々はサブカルチャーの世界に生きているのであり、それを否定することも捨てることもできなかった。我々にとってサブカルチャーの世界に生きることは我々のアイデンティティであり、ライフスタイルとなっていたからである。

このシンポジウムでは各話題提供者に、①自分とサブカルチャーの出会い、②自分の心理学者としての初期の研究テーマ、③心理学研究とサブカルチャーの両立、④サブカルチャーを心理学的に研究するようになったプロセス、⑤今後の人生設計などについて語ってもらう。その後で、特定の指定討論者は設けず、フロアの皆様と語りあっていきたいと考えている。

我々は心理学を職業として生活し、何時しか我々よりも上の世代の先輩方に学会でお会いする機会もめっきり少なくなるような年齢になった。このシンポジウムが心理学者としてどう生きるか、自分の趣味と心理学とのように折り合いを付けるか、その道を探している後輩諸氏にとっての道標となれば幸いである。

2. 話題提供者の要旨

2.1. 「特撮とROCKと心理学」

山岡重行（聖徳大学心理学科）

子供の頃から、特撮・SF・ホラー系が好きだった。10歳ぐらいからROCKを好きになった。1970年代から80年代

のアイドル全盛期、俺はまったくアイドルに興味を持てなかった。15歳くらいでPunkにはまり、俺はますますマイノリティへの道を突き進んでいった。好きなものが違うだけでなく、価値観が違ってしまった。音楽に関して4歳上の兄(GENET/AUTO-MOD)の影響も大きかった。兄のライブを観に行くようになり、高校生ぐらいからライブハウスに出入りするようになった。メンバーとしてステージに立っていた時期もあった。俺はライブの打ち上げで呑んでくれていた。布袋寅泰と高橋まことはAUTO-MODに1年半ほど在籍していた。YOSHIKIは友達のパンドのローディだった。兄のパンドが人気になるにつれて、万有引力や東京グランギニョルなどの演劇関係やカメラマンやマンガ関係など刺激的な人たちが集まりシーンを形成して行った。俺は東京のサブカルチャーシーンにどっぷり浸かって今に至る。

大学院生になりユニークネス研究で心理学界にデビューした。「自尊心感を高めるような他者との差異」であるユニークネスはまさに俺にぴったりの研究テーマだった。相変わらずライブハウスと研究室の二重生活を続けた。ユニークネス研究からいかにしてサブカルチャー研究に至ったか、シンポジウム当日お話ししたいと思う。

2.2 「鉄道趣味と心理学」

岡田努 (金沢大学人文学類)

鉄道少年、鉄道オタク(大きなお友達)の多くは自分も含めて、幼児期の「鉄道好き」から卒業する機会がなくそのまま成長してしまった人たちだろう。そのため、いつからとか、何が好きなのか?とか問われても、うまく答えることができない。しかし自分自身はそんな「オタク」とは一線を画す「一般人・平均人に近い」立場だとも思っている。きっと他の大きなお友達も、そういう自己意識を持っているだろう。

研究面では、青年期を中心に自己や友人関係の発達や様相を研究してきたが、これは趣味とは全く別個のものであった。このサブカルチャー心理学の一連の発表に触れたことが、趣味活動と研究を結びつけるきっかけであった。これまでの研究で用いた方法論や理論が援用でき、面白い研究ができそうだと、データを少しずつ集め出している。鉄道趣味者の心理学は研究の枠組みすら存在しないが、逆に言えば、杓子定規な方法論や枠組みにがんじがらめになった今の(一部の)心理学とは異なる新たな研究に発展する

可能性もある。シンポジウム当日はそんな可能性についても触れられたらと思っている。

2.3 「おたくと超常現象の心理学」

菊池聡 (信州大学人文学部)

超常現象や占い、オカルト、これらは正当な科学の枠組みから排除された「サブ」カルチャーの知である。ただし、これらを無批判に肯定する信念(ビリーフ)は、しばしば深刻な社会問題を引き起こし、単なる趣味の域を超えた社会的影響力がある。

非合理的信念の生成・強化に関する知見を持つ「心理学」は、こうした社会問題に有効なアプローチを提供しようだろう。また、超常現象の周辺は、さまざまな認知バイアスが奇妙な形で現実化した事案があふれており、これらは心理学教育のリアルな素材になりうる。この両面からの関わりが、話題提供者の基本的な立場である。

とはいえ、超常現象がゆかに奥が深い世界だとしても、世間様にはニッチで「キワモノ」的な領域と違いはない。ならば、そこを踏み台として、現代社会の課題解決に領域横断的に寄与できるテーマ、汎用的な「クリティカル・シンキング(批判的思考)」こそが重要になってくる。

一方で、若い頃の話題提供者は、実験神経心理学に取り組みつつ、いわゆる「おたく青年」としてSF特撮アニメにひたっていた。そして、その関心を正当化すべく、初期から「おたくステレオタイプ」の心理尺度調査にも取り組んできた過去がある。

そして、ここに異質の要素「クリティカル・シンキング」と「おたく」が思わぬ形で融合することになった。すなわち、初期の「おたく」は、社会的に不適格者とされるほど特定の対象へ情熱と共感を注ぎ、一方でそのジャンルに冷徹な観察眼を併せ持っている。さらには、そんな自らを客観視して受容するメタ認知も備えていた。これはまさにクリティカルシンカーの理想像であり、また”hot heart and cool mind”と形容される研究者精神に通じるものではないだろうか。

かくして、「超常現象」「おたく」「クリティカル・シンキング」という三題鼎が、心理学研究の視座のもと、つながった……そんな無理矢理な話をこの機会に語りあいたいと考えている。

(やまおかしげゆき・おかざつとむ・きくちさとる)

候補 1	競技レベルが高かった対人暴力被害者は現在も競技を継続している—被害経験に対する肯定的認知の媒介効果—	○ 豊田 隼 尾見 康博	東京大学・ 日本学術振興会 山梨大学
候補 2	Big Five パーソナリティと徒歩で暮らせるまちづくりの関連 —2020 年から 2023 年までの大規模縦断データを用いた地域レベルでの検討—	○ 澤田 奈々実 吉野 伸哉 小塩 真司	早稲田大学 公益財団法人医療科学 研究所 早稲田大学
候補 3	社会的地位と制御焦点の関連における自己愛の媒介効果の検討 —オンライン創作活動に着目して—	○ 有海 春輝 高橋 雄介	京都大学大学院 教育学研究科 京都大学大学院 教育学研究科
候補 4	感情的孤独及び社会的孤独の変化 ——2 年間の縦断的研究からの検討——	○ 古村 健太郎 相羽 美幸 菅原 大地 翠川 晴彦 櫛引 夏歩 白鳥 裕貴 川上 直秋 太刀川 弘和	弘前大学 # 東洋学園大学 # 筑波大学 # 筑波大学附属病院 # 弘前大学 # 筑波大学 # 筑波大学 # 筑波大学
候補 5	小中学生における Big Five パーソナリティ特性と学校 QOL の関連 —交差遅延パネルネットワーク分析を用いた検討—	○ 澤田 和輝 鈴木 美樹江 高橋 雄介	京都大学大学院教育学 研究科 愛知教育大学 京都大学
候補 6	血液型性格診断と MBTI (16personalities) に対する態度の比較 (3) —不思議現象に対する態度 (78) —	○ 坂田 浩之 川上 正浩 小城 英子	大阪樟蔭女子大学 学芸学部 大阪樟蔭女子大学 学芸学部 聖心女子大学 現代教養学部

以下の発表の時間に変更となりました。

P3-24	間接的要求の受諾・拒否に及ぼす受け手の感覚感受性の影響	○ 増井 啓太	追手門学院大学心理学部
		山本 美桜	# 追手門学院大学心理学部

ポスター発表 3

10 月 4 日（土） 14 : 50 ～ 16 : 50 会場 : 202 演習室・204 演習室

発表場所 P3-24



ポスター発表 4

10 月 5 日（日） 9 : 30 ～ 11 : 30 会場 : 202 演習室・204 演習室

発表場所 P4-30（在籍責任時間 10 : 30 ～ 11 : 30）

ポスター発表1 10月4日(土) 10:00 ~ 12:00 会場:202 演習室・204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(10:00 ~ 11:00) 偶数番号(11:00 ~ 12:00)

(○は発表者, # は非会員)

P1-1	恋はいつでもハリケーン (1) —エモフィリアを測定する尺度の因子構造—	○ 喜入 暁 谷口 あや 松本 昇	周南公立大学 三重大学 # 信州大学
P1-2	恋はいつでもハリケーン (2) —エモフィリアを測定する尺度の再検査信頼性および基準関連妥当性—	○ 谷口 あや 喜入 暁 松本 昇	三重大学教育学部 周南公立大学 # 信州大学
P1-3	プライム刺激に文章を用いた感情誤帰属手続きの有効性の検討 —ジェンダーステレオタイプを題材として—	○ 辻 絢加 中田 友貴 サトウ タツヤ	立命館大学院人間科学研究科 立命館大学総合心理学部 立命館大学総合心理学部
P1-4	シュワルツ基本価値観モデルの対極的価値観への着目—青年期の価値観確立層は対極的な2つの価値観を弁別する—	○ 片山 美由紀	東洋大学社会学部
P1-5	個人差研究における相関係数の集積的解釈の検討 —Weighted Contribution Index (WCI) の提案—	○ 三枝 高大 下司 忠大 松木 祐馬 吉野 伸哉	国際交流基金 立正大学 中部大学 公益財団法人医療科学研究所
P1-6	Social Appearance Anxiety Scale 短縮版 (SAAS-4) の作成 —日本語版作成を通じた検討—	○ 鈴木 公啓 矢澤 美香子 真覚 健 Trevor A. Hart	東京未来大学 武蔵野大学 # 仙台青葉学院大学 # Toronto Metropolitan University
P1-7	水族館来場および水族館動画視聴の心理的癒し効果の比較—大学生におけるPOMS-2 得点の前後比較—	○ 杉山 翠 渡邊 葉南 綾瀬 泉 村永 夏生 加藤 貴昭	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 # 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 # 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 # 慶應義塾大学環境情報学部 # 慶應義塾大学環境情報学部

P1-8	大人用の向社会的動機づけ尺度の作成 —確認的因子分析による因子構造の検討—	○ 横嶋 敬行 小野 挙 賀屋 育子 野口 太輔	信州大学 # 帝京学園短期大学 # こころとそだち研究会 中村学園大学
P1-9	心理的抵抗感に配慮した社会経済的地位 の測定法の検討—収入との関連からみた 代替指標の探索—	○ 中井 彩香 樋口 大樹 渡邊 直美 小林 哲生	NTT コミュニケーショ ン科学基礎研究所 # NTT コミュニケーショ ン科学基礎研究所 # NTT コミュニケーショ ン科学基礎研究所 # NTT コミュニケーショ ン科学基礎研究所
P1-10	MMPI-3 による対人援助を志す大学生の パーソナリティ傾向 —総合経済学専攻 学生との比較から—	○ 渡邊 亮士 荒木 友希子	金城大学人間社会科学 部／大阪大学大学院連 合小児発達学研究科 金沢大学人間社会研究 域人文学系
P1-11	心のダイナミズムを ZICE で捉えるため の課題と工夫—静的な活動体験に対する ZICE の応用可能性, その 2—	○ 後藤 龍太 五十嵐 麻希 山元 隆子 山下 温子 渡邊 智絵 平野 直己	岩見沢キャン心理学 研究会 岩見沢キャン心理学 研究会 岩見沢キャン心理学 研究会 岩見沢キャン心理学 研究会 岩見沢キャン心理学 研究会 岩見沢キャン心理学 研究会
P1-12	思春期から青年期前期の小中学生のパー ソナリティプロフィール —自己肯定感 を高める介入的アプローチのための予備 的調査 (2) —	○ 加藤 仁 寺嶌 裕登	北陸学院大学社会学部 # 名古屋大学教育基盤連 携本部
P1-13	就職活動中の学生の「できたこと日記」 と「ひとこと日記」の比較	○ 高野 ひかり 柳田 温子 佐藤 玄基 山本 弘樹 山口 美峰子 平野 真理	お茶の水女子大学大学 院 お茶の水女子大学 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 # NEC ソリューション イノベータ株式会社 お茶の水女子大学

P1-14	自己価値の随伴性の3領域が大学生活充実度、抑うつ・不安へ及ぼす影響プロセスの検討	○ 金子 功一	植草学園大学発達教育学部
P1-15	なりたくない自分との一致と社会的比較が自己受容に及ぼす影響	○ 能渡 綾菜 望月 聡	筑波大学大学院人間総合科学研究科 法政大学現代福祉学部
P1-16	大学生のストレスマインドセットの類型と精神的健康との関連	○ 劉 艶艶 齊藤 彩 松本 聡子 吉武 尚美 菅原 ますみ	お茶の水女子大学教学IRセンター お茶の水女子大学 # お茶の水女子大学 順天堂大学 白百合女子大学
P1-17	発達段階と性別によるアイデンティティの個人差 —成人形成期から中年期にかけての横断的検討—	○ 董 雨キ 畑野 快	大阪公立大学現代システム科学科 大阪公立大学現代システム科学科
P1-18	若年成人における仕事アイデンティティの類型とその関連要因 —1年間の短期縦断調査による検討—	○ 畑野 快 日原 尚吾 杉村 和美 池田 めぐみ 田中 聡 中原 淳	大阪公立大学 # 松山大学 # 広島大学 # 筑波大学 # 立教大学 # 立教大学
P1-19	大学生におけるアイデンティティの時間的統合のダイナミクス —過去自己連続性と将来領域の探求・コミットメントの経時的関係—	○ 浅山 慧 外山 美樹	筑波大学 筑波大学
P1-20	パーソナリティ・ニュアンスとBMIの関連に関する検討 —Elastic Net 回帰による分析—	○ 岡本 茉莉 小塩 真司	早稲田大学文学研究科 早稲田大学文学学術院
P1-21	疑似科学的健康言説の受容とその心理的要因の検討 —陰謀論心性・インターネット依存傾向との関連—	○ 谷 伊織 加納 安彦	愛知学院大学心理学部 # 名古屋大学環境医学研究所
P1-22	非緩和共同性の男女差とジェンダー・ギャップ指数との関連 —都道府県別データを用いたジェンダー・パラドックスの検討—	○ 萩原 千晶 小塩 真司	和洋女子大学 早稲田大学
P1-23	メンタライズされた感情認識尺度日本語版の妥当性の検討 —Big Five PersonalityおよびSocial Skillの観点から—	○ 馬場 天信	追手門学院大学心理学部

ポスター発表2 10月4日(土) 12:30 ~ 14:30 会場:204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(12:30 ~ 13:30) 偶数番号(13:30 ~ 14:30)

(○は発表者, # は非会員)

P2-1	血液型性格診断と MBTI (16personalities) に対する態度の比較 (2)	○ 小城 英子 坂田 浩之 川上 正浩	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P2-2	ゲームフル体験質問紙日本語版開発の試 み	○ 山本 晃輔 曾我 千亜紀 Menant Julien	法政大学理工学部 # 大阪産業大学 # 大阪公立大学
P2-3	推し活依存傾向尺度の信頼性・妥当性の 検討	○ 山岡 重行	聖徳大学心理・福祉学 部心理学科
P2-4	ゲーム行動の動機づけ尺度に関する予備 的検討 ―自己決定理論を基盤として―	○ 海野 利文 小塩 真司	早稲田大学大学院 文学研究科 早稲田大学文学学術院
P2-5	建造環境によって地域レベルのパーソナ リティ特性に分散は生じるのか ―ウォ ーカビリティに着目したメタ分析―	○ 吉野 伸哉 小塩 真司	公益財団法人医療科学 研究所 早稲田大学
P2-6	日本人の外向性は行動指標においても低 下している	○ 秋元 涼之介 荻原 祐二	東京大学人文社会系研 究科 青山学院大学教育人間 科学部
P2-7	外国人受け入れにおける学生の「抑圧的 寛容」の傾向 ―「文化」の使用例から の考察	○ 相原 征代 後藤 和史	北陸大学国際コミュニ ケーション学部 北陸大学国際コミュニ ケーション学部
P2-8	他人軸特性尺度の作成の試み ―Beck ら (1983)の Sociotropy の概念に着目して―	○ 木川 智美	名古屋産業大学
P2-9	刑事司法に対する態度および犯罪不安の 都道府県差―犯罪認知件数とジニ係数を 含めたマルチレベル分析―	○ 向井 智哉	福山大学
P2-10	Dark Triad のうち最も「ダーク」とみな されるのはどれか―社会的望ましさの認 知, 個人的望ましさの検討―	○ 上田 皐介 山形 伸二	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科, 日 本学術振興会 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科

P2-11	能動的・受動的な最小相互作用尺度の作成 — 因子の妥当性の検証 —	○ 平島 太郎 五十嵐 祐	愛知淑徳大学心理学部 # 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科
P2-12	漫画の恋愛はリアル？ — 恋愛関係における行動の左右差の傾向 —	○ 水戸 有希	法政大学大学院人文科学研究科
P2-13	職場いじめ被害時の援助要請の阻害要因に関する探索的検討	○ 井上 由美子 水野 雅之	筑波大学大学院 # 筑波大学人間系
P2-14	母親の不適切な被養育経験と被害的認知に対する育児ソーシャル・サポートの調整効果	○ 臼倉 瞳	東北学院大学人間科学部
P2-15	幼児の向社会的行動における評価方法の検討 — 教諭による向社会的行動評価と援助行動アセスメントとの関連から —	○ 内山 有美	鳴門教育大学

ポスター発表3 10月4日(土) 14:50 ~ 16:50 会場:202 演習室・204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(14:50 ~ 15:50) 偶数番号(15:50 ~ 16:50)

(○は発表者, # は非会員)

P3-1	文化的自己観と精神的健康の関連(1) —自尊感情と主観的ウェルビーイングと の関連—	○ 陸 英善 松田 英子	金沢大学大学院人間社 会環境研究科 東洋大学社会学部
P3-2	文化的自己観と精神的健康の関連(2) —精神的不調と睡眠の不調との関連—	○ 松田 英子 陸 英善	東洋大学社会学部 金沢大学大学院人間社 会環境研究科
P3-3	知性が高いロボットはポジティブに評価 されるのか?—ロボットへの評価におけ る個人特性の影響—	○ 山田 幸恵 松本 明人	東海大学文化社会学部 # さいたま市南部児童相 談所
P3-4	本邦における「合理的配慮」研究の動向 —学術タイトルのテキストマイニング—	○ 阿部 真吾 劔持 裕紀 石田 航	いたばし心理相談室 # 帝京大学学生カウンセ リングルーム # 国際医療福祉大学心理 学科
P3-5	Dark Triad が人生満足度に及ぼす影響— 性別との交互作用に着目して—	○ 屋田 拓臣 谷 伊織	愛知学院大学大学院 心身科学研究科 愛知学院大学
P3-6	自由意志信念は向社会的行動・判断と関 連するのか?—自由意志信念の操作方 法・主体・対象に着目したシステマティ ックレビュー—	○ 稲田 祝有 吉良 悠吾	久留米大学大学院 心理学研究科 # 久留米大学
P3-7	死後の世界を信じる若者が幸せな理由(4) —情報処理スタイルと公正世界信念の包 括的媒介モデルの検討—	○ 向居 暁 中本 朋花	県立広島大学地域創生 学部 # 戸田建設
P3-8	裏切り者検知能力は関係流動性で説明で きるか?	○ 小田 亮	名古屋工業大学大学院 工学研究科
P3-9	人物写真の性別と提示時間がドット・プ ローブ課題の反応時間に及ぼす影響	○ 富島 大樹 石井 国雄 田戸岡 好香	川村学園女子大学文学 部 東京家政大学人文学部 # 高崎経済大学地域政策 学部
P3-10	「推し」を秘匿したいファンの心理	○ 横井 絢香 小城 英子	聖心女子大学 聖心女子大学

P3-11	情動コンピテンスは世帯収入と人生満足度の関連を調整するか?	○ 西野 有美 張 蕾 有海 春輝 高橋 雄介	京都大学教育学研究科 # 京都大学教育学研究科 京都大学教育学研究科 京都大学教育学研究科
P3-12	勤務中のインターネット私用の建設的効果 —仕事の先延ばし尺度とテレワークに着目した探索的検討—	○ 黒住 嶺 伊達 洋駆	株式会社ビジネスリサーチラボ # 株式会社ビジネスリサーチラボ
P3-13	恥意識が鉄道利用に伴う向社会的行動および迷惑行為の促進・抑制に及ぼす影響 — 仲間との不一致に起因する恥意識は向社会的行動を抑制し、迷惑行為を促進するのか —	○ 中村 真	江戸川大学社会学部
P3-14	組織コミットメントと職務満足感、情緒的消耗感、離職意向との関連	○ 閻 琳	美作大学
P3-15	心理学が平和のためにできること（５） —エクスポージャーと共感性が平和への態度に及ぼす影響—	○ 友田 貴子	淑徳大学人文学部
P3-16	大学生における国際協力活動の促進要因の検討—計画的行動理論に基づいたモデルの検証—	○ 大久保 智生 荒井 崇史 鈴木 修斗	香川大学 # 東北大学 日本学術振興会・北海道大学大学院
P3-17	集団凝集性に着目した仮想空間及び対面でのディベートの比較	○ 藤澤 文	鎌倉女子大学
P3-18	見捨てられ不安と親密性の回避が孤独感に与える影響 —性別による違いに注目して—	○ 富井 繭 小塩 真司	早稲田大学文学研究科 早稲田大学文学学術院
P3-19	非緩和共同性と対人ストレスの関連 —セルフコントロールも含めての検討—	○ 橋本 剛	静岡大学人文社会科学部
P3-20	恋愛関係への移行が青年の心理特性に及ぼす社会化効果の検討 —半年間の縦断データに基づいて—	○ 古谷 かすみ 高野 恵代 坂田 陽子 久保 南海子	愛知淑徳大学大学院 心理医療科学研究科 愛知淑徳大学心理学部 # 愛知淑徳大学心理学部 # 愛知淑徳大学心理学部
P3-21	顕在・潜在的自尊心と相手に応じたパーソナルスペース調整の柔軟性—親しさの異なる他者との距離の差に注目して—	○ 大浦 真一	東海学院大学人間関係学部

P3-22	出会いの手段としてのマッチングアプリ —恋愛価値観とアプリの種類に着目して—	○ 井川 純一 桑原 慶人	# 東北学院大学 東北学院大学大学院
P3-23	大学生における情緒的信頼と認知的信頼 の検討	○ 忠内 朝子	東洋大学大学院総合情報学研究科
P3-24	間接的要求の受諾・拒否に及ぼす受け手の 感覚感受性の影響	○ 増井 啓太 山本 美桜	# 追手門学院大学心理学部 追手門学院大学心理学部
P3-25	相手との親密度と酒席における自己開示 規範のパターンが自己開示後の感情に及 ぼす影響	○ 山下 倫実	十文字学園女子大学
P3-26	制御焦点が大学生の対人行動に及ぼす影 響 —制御適合の観点から—	○ 小島 弥生	北陸大学国際コミュニケーション学部
P3-27	逆境的小児体験と Dark Triad が愛着スタ イルに与える影響	○ 太田 仁	奈良大学社会学部
P3-28	嘘をつくときに経験する内的過程の個人 内変動—深刻な嘘と軽微な嘘の比較—	○ 佐藤 拓 太幡 直也	明星大学心理学部 愛知学院大学総合政策学部
P3-29	告白時の年齢による告白相手に対する魅 力認知の比較	○ 高坂 康雅	和光大学現代人間学部
P3-30	日本のパーソナリティ研究は何を扱って きたか—「パーソナリティ研究」誌にお けるキーワードの分析（1993-2024）—	○ 下司 忠大 萩原 千晶 橋本 泰央 松木 祐馬 三枝 高大 上野 雄己 吉野 伸哉 小塩 真司	立正大学心理学部 和洋女子大学 東北文教大学 中部大学 国際交流基金 東京大学 医療科学研究所 早稲田大学

ポスター発表4 10月5日(日) 9:30 ~ 11:30 会場:202 演習室・204 演習室

在籍責任時間: 奇数番号(9:30 ~ 10:30) 偶数番号(10:30 ~ 11:30)

(○は発表者, # は非会員)

P4-1	大学教員が抱えるストレスの実態調査(1) —自由記述データの質的分析—	○ 河越 隼人 渡邊 ひとみ 稲垣 勉	帝塚山大学心理学部 高知大学 京都外国語大学
P4-2	大学教員が抱えるストレスの実態調査(2) —大学教員ストレス尺度の作成の試み—	○ 渡邊 ひとみ 稲垣 勉 河越 隼人	高知大学人文社会科学部 京都外国語大学 帝塚山大学
P4-3	オンラインカウンセリングにおけるクライアントの治療期待とセラピストの対応効力感のマッチングによる初期ドロップアウトの予測	○ 桂川 泰典 原田 陸 高橋 恵理子	早稲田大学 # 株式会社 cotree # 明星大学
P4-4	自己決定性に基づいて完全主義を測定する尺度の作成—自己決定理論を導入した新たな完全主義モデルの提案—	○ 坪田 祐基	愛知淑徳大学健康医療科学部
P4-5	Positive Solitude は状態孤独感を和らげるのか?—不適応的パーソナリティ特性がもたらす個人差に着目して—	○ 櫛引 夏歩 矢口 知絵 菅原 大地 相羽 美幸 白鳥 裕貴 川上 直秋 太刀川 弘和	弘前大学 # 筑波大学, 茨城県こころの医療センター # 筑波大学 # 東洋学園大学 # 筑波大学 # 筑波大学 # 筑波大学
P4-6	強迫傾向における素因ストレスモデルによる検討	○ 清水 健司 清水 寿代	広島国際大学 広島大学大学院
P4-7	わが国におけるトラウマインフォームドケア研究の動向と変遷—当事者視点から支援者視点への転換に着目して—	○ 井出 百合菜 石田 航	国際医療福祉大学大学院臨床心理学専攻 # 国際医療福祉大学心理学科
P4-8	推し活の頻度を測定する尺度の開発 その2—その妥当性の検討—	○ 中谷 智美 福井 義一	名古屋産業大学 甲南大学
P4-9	高校生における専門家への援助要請行動について—スティグマに着目して—	○ 川本 静香	京都精華大学共通教育機構

P4-10	Social Appearance Anxiety と精神的健康, 外見に関わる心理変数との関連—Social Appearance Anxiety Scale 短縮版 (SAAS-4)を用いて—	○ 矢澤 美香子 鈴木 公啓 真覚 健 Trevor A. Hart	武蔵野大学人間科学部 東京未来大学 # 仙台青葉学院大学 # Toronto Metropolitan University
P4-11	「虐待された記憶」は愛着スタイルの影響を受けるのか? —回顧的な被虐待経験と愛着スタイルによる交差遅延効果モデルの検討—	○ 中井 (松尾) 和弥 大浦 真一	神戸松蔭大学 東海学院大学
P4-12	コミュニケーションスタイルの違いが不安に及ぼす影響—顔が見えるか見えないかはどう影響するのか—	○ 北原 輝人 山田 幸恵	東海大学大学院文学研究科 東海大学文化社会学部
P4-13	特性的楽観性と軽躁傾向の関連—双極スペクトラムによる観点からの検討—	○ 渡辺 将成 大森 正英 藤岡 孝志 堅田 明義	中部学院大学大学院人間福祉学研究科 # 中部学院大学 # 中部学院大学 # 中部学院大学
P4-14	アレキシサイミアとアサーティブネスの関係—下位尺度を再構成した TAS-20 を用いて—	○ 小鹿 真嗣	東海学院大学大学院付属心理臨床センター
P4-15	メンタライジングと抑うつ・不安症状の関連における曖昧さへの態度の調整効果	○ 榎木 宏之 甲田 宗良	広島国際大学健康科学部心理学科 # 徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会総合科学域人間科学系心理学分野
P4-16	鮮明性測定尺度回答時に生じる聴覚のイメージ体験と鮮明性測定値の関連の検討	○ 福井 晴那	立正大学心理学部
P4-17	防衛的悲観主義者は楽観的?—スポーツ指導者を対象とした検討—	○ 木村 駿介 嘉瀬 貴祥 矢野 康介	静岡産業大学スポーツ科学部 人間環境大学総合心理学部 筑波大学人間系
P4-18	幸せの形はひとつじゃない —人生満足度を規定する要因の個性記述的検討—	○ 山形 伸二	名古屋大学
P4-19	予期ノスタルジアと自己成長—未来展望を考慮して—	○ 長峯 聖人 千島 雄太	江戸川大学 # 筑波大学

P4-20	完全主義と幸福追求傾向が幸福感に与える影響—「ミスへのとらわれ」の調整効果に注目して—	○ 中津 美月 山口 正寛	大阪教育大学大学院 教育学研究科 大阪教育大学
P4-21	新旧の「蛙化現象」体験に影響する性格特性や感情に関する研究	○ 高橋 誠	神奈川大学人間科学部
P4-22	泣きの信念と精神的健康との関連—泣くことはストレス制御方略として有効か？—	○ 白井 真理子 加藤 樹里	信州大学人文学部 # 金沢工業大学
P4-23	不安感受性を測定する日本語版 ASI-3 の改訂 その1—因子的妥当性と信頼性の検討—	○ 福井 義一 中谷 智美	甲南大学文学部 名古屋産業大学現代ビジネス学部
P4-24	未来不安が未来イベントへの不安を予測する効果—特性不安を統制した検討—	○ 張 澤 楊 帆 堀内 孝	岡山大学大学院社会文化科学研究科 早稲田大学文学学術院 岡山大学学術研究院 社会文化科学学域
P4-25	不安は手を広げ、抑うつは足を止める—抑うつと不安が代替目標への評価に与える影響—	○ 服部 陽介	大手前大学
P4-26	人はどのようなときに後悔を糧にするのか—結果後悔、プロセス後悔の調節メカニズムの検討—	○ 伊藤 拓	名古屋大学心の発達支援研究実践センター
P4-27	鉄道ファンによる迷惑行為の認識についての予備的研究—鉄道趣味者と非趣味者の比較—	○ 岡田 努	金沢大学人文学系
P4-28	デートバイオレンス・ハラスメントにおける合理化尺度の作成—DV 認知・通報との関連の検討—	○ 岸川 礼依 越智 啓太	法政大学大学院人文科学研究科心理学専攻 法政大学
P4-29	対人目標への介入が自己愛傾向者の日常的な心理的適応に及ぼす影響	○ 小林 茉那 瀬戸 正弘	神奈川大学人間科学部 神奈川大学人間科学部

P5-1	アスリートが痛みに耐える心理的背景を 探る—自己調整の観点から—	○ 尾見 康博 小山 勝弘 豊田 隼 小野田 亮介 渡邊 耀介	山梨大学 # 山梨学院大学 東京大学 # 山梨大学 # 山梨トヨペット株式会社
P5-2	成人における生活史戦略の発達 —8 時点 にわたる縦断調査データによる分析—	○ 川本 哲也	慶應義塾大学文学部
P5-3	年齢ごとの子どものパーソナリティ表現 用語の違い	○ 橋本 泰央 白取 真実 小塩 真司	東北文教大学 # 目白大学 早稲田大学
P5-4	就業者の主観的生産性とその促進要因の 発達の变化	○ 市川 玲子 鈴木 美穂 秋富 穰	NEC ソリューションイ ノベータ株式会社 # NEC ソリューションイ ノベータ株式会社 # NEC ソリューションイ ノベータ株式会社
P5-5	学業的達成目標と社会的達成目標の関係 性—メタ分析を用いた検討—	○ 海沼 亮	松本大学教育学部
P5-6	ストレスと認知的評価およびコーピング の関係—先行研究の整理・検討を通して —	○ 岡谷 ゆい	名古屋葵大学
P5-7	逆境の小児期体験と精神病理の関連に関 するメタ分析	○ 飯塚 喜久乃 高橋 雄介	京都大学 京都大学
P5-8	保護者の援助要請支援志向が子どもの学 校適応に及ぼす影響—小学生から高校生 を対象にした横断的調査による検討—	○ 解良 優基 林 亜希恵	南山大学人文学部 # 福井大学
P5-9	育児ストレスに対する親子気質タイプの 比較分析 —気質的な「適合の良さ」に 着目—	○ 連 傑濤 孫 怡 矢藤 優子	立命館大学 OIC 総合研 究機構 立命館アジア・日本研 究機構 立命館大学総合心理学 部

P5-10	ながらスマホ育児が幼児の社会性に及ぼす影響—3波パネル調査による幼児のインターネット利用時間の媒介効果の検討—	○ 松尾 由美	江戸川大学メディアコミュニケーション学部
P5-11	青年の「むなしさ」体験による肯定的変化のプロセス	○ 篠田 直子 鳥居 真侑	信州大学学術研究院教育学系 # 医療法人和心会 松南病院
P5-12	首尾一貫感覚と批判的思考態度の因果的関係の検討—心理教育的介入への応用可能性に向けて—	○ 嘉瀬 貴祥 磯和 壮太郎	人間環境大学 名古屋芸術大学
P5-13	比喩表現と辞書の定義の作成を通じた記憶観の検討—特徴語を用いた比較—	○ 富高 智成 中田 英利子 向居 暁 田畑 慶人	京都医療科学大学 # 佛教大学 県立広島大学 # 京都医療科学大学
P5-14	援助要請の方法を捉えるための尺度の作成	○ 永井 智	立正大学
P5-15	大学において認知的信頼と帰属感の形成を促進する要因 (2) — 大学において帰属感の形成を促進する要因 —	○ 川上 正浩 坂田 浩之 佐久田 祐子 奥田 亮	大阪樟蔭女子大学学芸学部 大阪樟蔭女子大学学芸学部 # 大阪樟蔭女子大学学芸学部 大阪樟蔭女子大学学芸学部
P5-16	学校教員の心理的職務状態の潜在クラス遷移に関する検討——学校組織風土による変動効果——	○ 磯和 壮太郎	名古屋芸術大学教育学部
P5-17	AI との共創—生成 AI の提示タイミングと知的謙虚さが創造性に与える影響—	○ 外山 美樹 佐藤 孝太	筑波大学 # 筑波大学心理学類
P5-18	大学生における授業中のメモの取り方と学修成果の関連—学習意欲を統制して—	○ 太幡 直也 西川 さくら	愛知学院大学総合政策学部 # 愛知学院大学総合政策学部
P5-19	高校生のメンタルヘルスリテラシーが抑うつ傾向に及ぼす間接的効果—家族・学校からのソーシャル・サポートとの関連から—	○ 田中 麻未 高橋 雄介	帝京大学 京都大学

P5-20	個別指導塾における講師の教育行動が中高生の学習意欲に与える影響	○ 江頭 結衣 吉良 悠吾	社会福祉法人 風と虹 筑後いずみ園 久留米大学 文学部
P5-21	保護者が期待する小学1年生の適応と成長—学校生活への安心感を高めるプログラムの開発に向けて—	○ 本間 優子 板垣 彩	# 新潟青陵大学福祉心理 子ども学部 青森県総合学校教育セ ンター
P5-22	防犯ボランティアにおける心理的健康と参加意図に関する縦断的検討—特性レベルの動機づけと状況レベルの充足感の関連に着目して—	○ 赤松 大輔 水野 君平 大久保 智生	京都教育大学 北海道教育大学旭川校 香川大学
P5-23	Big Five と複数の成績指標との関連	○ 松木 祐馬 山内 星子 田中 秀紀 堀 匡	# 中部大学 # 中部大学 # 中部大学 # 中部大学
P5-24	英語への潜在的な態度は何と関連するのか	○ 三和 秀平 青山 拓実 小倉 光明	# 信州大学教育学部 # 明治大学 # 信州大学
P5-25	情報プライバシーが FemTech アプリ利用における プライバシーポリシーの理解およびプライバシー懸念に及ぼす影響	○ 佐藤 広英 太幡 直也 金森 祥子	# 信州大学／情報通信研 究機構 愛知学院大学／情報通 信研究機構 # 情報通信研究機構

恋愛と結婚の心理学

恋愛心理学研究の現在地

高坂康雅 著

■A5判/並製/244頁 ◎定価 2,750円

近年の研究成果をもとに『恋愛心理学特論』を大幅改訂。刷新された構成とデータで迫る異性恋愛の“今”。



プロセス・ファシリテーション

人と人、人と社会がつながって育つ、人間関係づくり体験学習プログラム

林 芳孝 著

■A5判/並製/236頁 ◎定価 2,970円

人間関係づくりを楽しく実践的に学べる、ファシリテーションのための16の体験学習プログラムを紹介する。



研究法がアートと出会うとき

アートベース・リサーチへの招待

バトリシア・リーヴィー 著

岸 磨貴子、東村知子、久保田賢一 訳

■A5判/並製/396頁 ◎定価 6,930円

アートベース・リサーチは学術論文の限界を超え、研究を社会にひらく。その実践法を豊富な事例を交え解説。



新・脳から始めるこころの理解

心理学・脳科学による心の見方

安部博史 編著

■A5判/並製/266頁 ◎定価 3,080円

大学生や臨床現場の担当者向け、心理学・脳科学の知見からAIやネット依存まで網羅した「脳」の入門書。



トラウマセンシティブスクール

安心して学べる

やさしい学校づくりの理論と実践

岩切昌宏、瀧野揚三 監修

内海千種、中村有吾、石橋正浩 編

■四六判/並製/258頁 ◎定価 2,640円

教職員がトラウマや逆境の小児期体験に関する理解を深め、児童生徒が安全に過ごせる環境づくりの理論と実践。



欺瞞と嘘発見の科学入門

クリス・N・H・ストリート 著

太幅直也、佐藤 拓、

村井潤一郎、田口恵也 訳

■A5判/並製/322頁 ◎定価 5,940円

嘘に関する古典的および最新の心理学研究と、嘘検知を理解するための理論的アプローチについて論じる。



生涯発達心理学

理論と実践への誘い

大川一郎、安藤智子 編著

■A5判/並製/300頁 ◎定価 3,080円

生涯発達心理学の基礎から高度な知識まで網羅。2色刷、豊富な図表、コラムと読書案内で教科書にも参考書にも。



新・消費者理解のための心理学 (第2版)

永野光朗、秋山 学 編著

■A5判/並製/304頁 ◎定価 2,970円

消費者行動の心理学的・経済学的側面を解明し、今日のマーケティング戦略に役立つ知識を提供する。



基本から学ぶ発達と教育の心理学

藤田主一 編著

■A5判/並製/204頁 ◎定価 2,860円

教職課程の基本テキスト『新 発達と教育の心理学』の全面改訂版。わかりやすい最新の内容で初学者に最適。



大会初日関連シンポジウム「心理的状況研究の最前線(4)」 状況の心理学ハンドブック (仮)

ジョン・F・ラウスマン、
ライン・A・シャーマン、
デイビッド・C・ファンダー 編
堀毛一也、渡邊芳之、松田英子、
小塩真司、山形伸二 編訳

■B5判/上製/予600頁 ◎予価 13,200円

各研究分野の第一人者が執筆。状況の心理学的側面に関する最先端の知識を体系的にまとめた研究者必読「状況研究」の真打登場!

10月刊行予定
詳細は書籍展示ブースで
ご確認ください



福村出版

〒104-0045 東京都中央区築地4-12-2

TEL 03-6278-8508 FAX 03-6278-8323 <https://www.fukumura.co.jp>

◎定価は税込み価格です。



psychotherapy.net_JP ACADEMY

実際のカウンセリング場面で学べる アメリカ発 心理療法教材

世界の多くの教育機関で利用されている、心理療法の動画配信サービス psychotherapy.net_JP の法人専用ページが完成しました。さまざまな心理療法のエキスパートたちによるデモンストレーションと解説を視聴することで、より生きた理解が可能となります。授業内で扱う教材の一部として、あるいは学生の自主学習教材としてぜひご活用ください。



<https://www.nsgk.co.jp/psychotherapy/academy/>

psychotherapy.net 創設者 / 案内役 Victor Yalom

精神科医であり精神療法家でもあるアーヴィン・ヤロム（スタンフォード大学精神医学名誉教授）の息子。多数の心理療法のトレーニングビデオを制作。

監訳者 岩壁 茂（立命館大学 総合心理学部 教授）

カナダ McGill 大学大学院カウンセリング心理学専攻博士課程修了。心理学博士 (Ph.D.) 専門分野は、心理療法のプロセス研究。英語、日本語の著書および論文多数。

Series 01 一歩ずつ学ぶ 動機付け面接 4本シリーズ

動機付け面接（Motivational Interviewing/MI）のスキルを、その中核概念の説明と実際の面接のデモンストレーション、セッション前後のインタビューを通じ、理論と技術（テクニック）の両面から、包括的に学ぶことのできる動画シリーズです。動機付け面接のスピリットから、医療、学校、EAP 等さまざまな現場での活用法まで学ぶことができますので、幅広い学習者にお役立ていただけます。

Episode

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 01. 動機付け面接の中核概念 | 03. 動機付け面接—両価感情を解決する |
| 02. 動機付け面接—重要性を高める | 04. 動機付け面接—自信をつける |

出演者：キャシー・コール 7時間 58分 配信価格 ¥82,500 (税込) / 年 DVD 価格 ¥352,000 (税込)



Series 02 一歩ずつ学ぶ 感情焦点化療法（EFT） ～カップル支援のための実践ガイド～ 4本シリーズ

出演者：レベッカ・ジョーゲンセン 11時間 7分 配信価格 ¥99,000 (税込) / 年 DVD 価格 ¥418,000 (税込)

Series 03 子どもの心理療法 単品購入可能

①ゲシュタルト療法を用いたプレイセラピー	出演者：パイオレット・オークランダー	1時間 47分	配信価格 ¥22,000 (税込) / 年
②対象関係論を活用したプレイセラピー	出演者：デイビッド・シャルフ	1時間 51分	配信価格 ¥22,000 (税込) / 年

Series 04 身体にフォーカスしたトラウマの理解と対応 単品購入可能

①ベッセル・ヴァン・デア・コーク博士とトラウマについて学ぶ	出演者：ベッセル・ヴァン・デア・コーク	1時間 16分	配信価格 ¥22,000 (税込) / 年
②ソマティック・エクスペリエンスを用いたトラウマへの介入	出演者：ピーター・A・ラヴィーン	3時間 21分	配信価格 ¥33,000 (税込) / 年

Series 05 パーソナリティ障害へのアプローチ ～アルフレッドと3人のセラピスト～ 単品購入可能

①弁証法的行動療法	出演者：マーシャ・リネハン	1時間 49分	配信価格 ¥27,500 (税込) / 年
②認知行動療法	出演者：アーサー・フリーマン	2時間 47分	配信価格 ¥27,500 (税込) / 年
③精神分析的心理学療法	出演者：オットー・カールバーグ	4時間 16分	配信価格 ¥41,250 (税込) / 年

お問合せ先

株式会社
日本・精神技術研究所

東京都千代田区九段南 2-3-26 井関ビル 2 階
<https://www.nsgk.co.jp> kouza@nsgk.co.jp

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

https://www.kitaohji.com(価格税込)

非認知能力の発達

一生運にわたる変化と影響― 小塩真司編著 A5・336頁・定価2970円 非認知能力はどのように発達するのか。教育的・養育的関わりを含めたさまざまな人間関係やライフイベントの影響のもと、心理特性相互の関連性にも着目しつつ、人生全体にわたって変化するものとして捉える。発達概念とあわせて多様な意味を考える奥深さへとつながる。

経験サンプリング法入門

一集中的縦断研究のデザインと分析を学ぶ― ナイアル・ボルジャー、ジャン＝フィリップ・ロレンソ著 尾崎由佳訳 A5・264頁・定価3850円 調査対象者の行動・感情データをリアルタイムで短時間に繰り返し収集する、経験サンプリング法や日誌法の手引書。研究デザインの選択、得られたデータの扱い方と関連する統計学的知識、理論のモデル化を解説。

パーソナリティのHファクター

―自己中心的で、欺瞞的で、貪欲な人たち― K. リー、M. C. アシュトン著 小塩真司監訳 四六・208頁・定価2640円 自分を利するために計算高く他人を操る、特別な地位や権利を得るに値すると自惚れている……Hファクターの低い人々。パーソナリティのHEXACOモデルを発案した心理学者たちが、彼らに特徴的な性格傾向や行動様式を解説する。

感情制御ハンドブック

―基礎から応用そして実践へ― 有光典記監修 飯田沙依聖、柳原良太、手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一覧できる書。基礎理論に始まり、社会・人格・認知・発達・臨床・教育、さらには経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

非認知能力

―概念・測定と教育の可能性― 小塩真司編著 A5・320頁・定価2860円 「人間力」「やりぬく力」など漠然とした言葉に拠らず、心理学の知見から明かに論じる。誠実性、グリット、好奇心、自己制御、楽観性、レジリエンス、マインドフルネスなど関連する15の心理特性を取りあげ、教育や保育の現場でそれらを育む可能性を展望する。

心理尺度のつくり方

村上宣寛著 A5・160頁・定価2420円 心理学において人間の意識や行動を調べる方法として使われる「心理尺度」には、妥当性が高く使用に耐えるものが少ない。本書は、妥当性の高い心理尺度を開発する方法を具体的に提供する。また、尺度開発方法の歴史的経緯から、尺度開発の実践に至るまで実践的に詳説する。

ディスカバリー社会心理学

太極直也、上原俊介編著 A5・288頁・定価2860円 知的好奇心を満たし学びの面白さへとつながる、社会心理学の新定番テキスト。「集団とまじわる」「人とかわかる」「内からとらえる」の3部から成る15の章で展開。公認心理師ブループリントのキーワードも取り入れつつ、基礎から最新の研究まで学生の関心をひくトピックを満載。

生理心理学と精神生理学 第1巻 基礎

堀 忠雄、尾崎久記監修 坂田省吾、山田富美雄編集 B5・320頁・定価4180円 第1巻では生理心理学の歴史的な経緯も含め、主に研究法の基礎的内容を扱う。脳とそれ以外の生体反応を区分し、その測定技術および解析の仕方について詳説する。基礎的知見の体系的理解を得るために国家資格試験の試験対策としても好適。Ⅱ巻応用、Ⅲ巻展開の全3巻。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事 (全20巻) 完結！

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・148～232頁・定価2200～2530円

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

「人」と「組織」を研究して半世紀

豊かな「知見」と確かな「測定技術力」で
経営と人事課題の解決を支援します。

■豊富な経験・蓄積データと最新の理論・分析に基づいたアセスメントツールの提供

現在、著しい社会環境の変化に伴い、わが国の企業組織では、
新しいパラダイムに基づく経営戦略、人事制度、評価システムなどの導入が図られています。
同時に、個人の“心”を正確に把握した上での組織経営も求められています。
NOMA 総研では、豊富な蓄積データをベースに、最新の理論と分析手法を駆使し、
高い信頼性と妥当性を保持したアセスメントツールをご提供いたします。

■お客様の目的に沿った、ソリューションプランの提案

活力ある組織を創造するためには、経営的視点と従業員の視点とのマッチングが不可欠です。
企業を取り巻く環境が変化中、経営施策・方針を浸透・共有させ、
従業員の多様な価値観を受容することが、従業員の組織への貢献意欲や当事者意識を高め、
結果として組織力を高めます。NOMA 総研では、お客様のニーズを的確に捉え、
組織的課題を解決するために最適なソリューションをご提案いたします。

■測定技術力を通じて、人と組織の『相互進化』の在り方を提案

人を知り、人を活かす組織の創造へ…。NOMA 総研は、アセスメントツールの研究開発をはじめ、
人材総合支援を念頭に、時代の流れを的確に捉えた管理・評価システムの開発を進めております。
組織と個人を活かす『相互進化の経営』の在り方を提案する NOMA 総研にご注目ください。



株式会社 日本経営協会総合研究所

<https://www.noma.co.jp/>

〒163-0726 東京都新宿区西新宿 2-7-1 26 階

■東京本部 ■西日本事業本部 ■名古屋営業所

心理学を遊撃する 再現性問題は恥だが役に立つ

山田祐樹 著

A5判並製240頁／定価: 2600円



文化心理学〔改訂版〕 理論・各論・方法論

木戸彩恵・サトウタツヤ 編

A5判並製344頁／定価: 2800円



科学を否定する人たち

なぜ否定するのか？
我々はいかに向き合うべきか？

ゲイル・M. シナトラ,
バーバラ・K. ホファー 著
榎原良太 訳

四六判並製312頁／定価: 2800円



日本の部活(BUKATSU) 文化と心理・行動を読み解く

尾見康博 著

四六判並製160頁／定価: 1700円

こころのやまいの とらえかた

佐々木 淳 著

四六判並製264頁／定価: 2400円



〔ストーリーでわかる心理統計〕 大学生ミライの 信頼性と妥当性の探究

小塩真司 著

A5判並製216頁／定価: 2200円



学びを愉しく

10th Anniversary

株式会社 ちとせプレス

〒157-0062

東京都世田谷区南烏山 5 丁目20-9

ハウス・アム・パンホフ 203

Webサイト: <http://chitosepress.com>

E-mail: info@chitosepress.com

Tel: 03-4285-0214 / Fax: 03-4243-3725

日本パーソナリティ心理学会第 34 回大会
協賛企業・団体ご芳名

- ・ 一般社団法人松本観光コンベンション協会【大会開催助成】
- ・ 松本市【大会開催助成】
- ・ 福村出版株式会社【広告，書籍販売，協賛金】
- ・ 株式会社日本・精神技術研究所【広告，協賛金】
- ・ 株式会社日本経営協会総合研究所【広告，協賛金】
- ・ 株式会社北大路書房【広告】
- ・ 株式会社ちとせプレス【広告】
- ・ 株式会社テキスト【広告】
- ・ アイブリッジ株式会社【展示】
- ・ 株式会社ライトストーン【展示】

本大会を開催するにあたり，上記の企業・団体により多大なご支援・ご協力を賜りました。
ここにそのご芳名を記して，心から感謝の意を表します。

2025 年 9 月
日本パーソナリティ心理学会第 34 回大会準備委員会

日本パーソナリティ心理学会第 34 回大会準備委員会

菊池 聡	(信州大学)
松本 昇	(信州大学)
三和 秀平	(事務局長, 信州大学)
白井 真理子	(信州大学)
佐藤 広英	(委員長, 信州大学)

お問い合わせ先

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学人文学部佐藤広英研究室
E-mail: jspp34.2025@gmail.com

公式情報

大会ホームページ <https://www.jspp34.jp/>
X (旧 Twitter) @jspp34_shinshu

ل

س

ر

ر